しろあり

SHIROARI

THE TERMITE CONTROL CORPORATION OF JAPAN

FEBRUARY 1969

社団法人設立記念特集号

社団法人 日本しろあり対策協会

NO. 10

シロアリ防除施工士資格検定試験申込案内

社団法人　日本しろあり対策協会
東京都港区芝西久保明舟町19番地（住宅会館）
電話（501）3876

この検定試験は，シロアリ防除施工士規程に基いて行なわれるものであります。

1. 受験資格

検定試験の受験資格は次の各号の一に該当する者とする。

(1) 次の大学または学校を卒業したのち，防除施工に関して２年以上の実務経験を有する者。
　① 学校教育法（昭和22年法律第26号）による大学
　② 旧大学令（大正７年勅令第388号）による大学
　③ 旧専門学校令（明治36年勅令第61号）による専門学校

(2) 次の学校を卒業したのち防除施工に関して４年以上の実務経験を有する者。
　① 学校教育法（昭和22年法律第26号）による高等学校
　② 旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）による中学校卒業程度を入学資格とする修業年限３年以上の教育を行なう各種学校

(3) 次の学校を卒業したのち防除施工に関して６年以上の実務経験を有する者。
　① 国民学校初等科終了程度を入学資格とし，修業年限を５年とする旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）による学校
　② 国民学校高等科卒業程度を入学資格とし，修業年限３年（ただし夜間は４年以上）とする旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）による学校

(4) 防除施工に関し10年以上の実務経験を有するもので資格検定委員会において前各号と同等と認められた者。

2. 申込手続

(1) 受付期間　昭和44年２月12日（水）―昭和44年２月28日（金）

(2) 受付場所　社団法人日本しろあり対策協会　東京都港区芝西久保明舟町19番地（住宅会館）
　ただし　九州地区在住者は「社団法人日本しろあり対策協会九州支部」
　（福岡市天神１丁目10番31号 因幡ビル内 電話(75)2416）
　沖縄地区在住者は「沖縄しろあり防除士協会」
　（那覇市安里５番地儀間ビル内）
　にお申込下さい

(3) 申込方法　申込用紙２通，申込資格を証明する最終学校卒業証明書ならびに経験年数を証明する書類各１通に資格検定試験手数料3,000円を添付して提出して下さい。

3. 受験日時および場所

(1) 受験日時　昭和44年３月27日　午前10時より12時

(2) 受験場所　東京地区　社会文化会館　東京都千代田区永田町１―８―１　電話（580）1171
　近畿地区　京都大学化学研究所　京都府宇治市宇治五ケ庄　電話（31）8165
　九州地区　福岡県母子会館　福岡市天神１丁目１ノ５（福岡県庁横）　電話（75）0477
　沖縄地区　沖縄県那覇市

(3) 試験方法　筆記試験　試験科目　イ．シロアリの昆虫学的知識　ロ．シロアリ防除薬剤に関する知識　ハ．シロアリ防除処理施工の知識　ニ．木造建築物のシロアリ防除処理仕様書に関する知識　ホ．建築に関する知識

4. 合否の発表

(1) 昭和44年４月25日（金）までに本人宛通知します。

(2) 合格の通知には次の用紙を同封いたしますが登録手続の際提出して下さい。
　登録申込書　誓約書

5. 登録申込手続

(1) 受付時期　昭和44年５月１日以降

(2) 受付場所　社団法人日本しろあり対策協会　東京都港区芝西久保明舟町19(住宅会館４階)電話（501）3876

(3) 提出書類　登録申込書　誓約書

(4) 登録手数料　10,000円

6. 登　　録

(1) 登録は合格通知書の日から６カ月間以内に完了して下さい。この期間を経過しますと登録が出来なくなりますからご注意下さい。

(2) 登録を完了したときは「登録証書」と徽章（バッジ）を送付します。

「しろあり」防除施工士規程

第1章　総　　則

第1条　目　的

この規程は，「しろあり」の防除施工を行なう技術者の資格を定めて，その業務の適正を図り，もって「しろあり」防除施工の確実性と安全性を確保し，防除の万全を期することを目的とする。

第2条　定　義

この規程で「しろあり」防除施工士（以下「防除士」という。）とは，社団法人日本しろあり対策協会（以下「協会」という。）の会員であって，第4条による防除士としての資格取得者で，「しろあり」の予防，または駆除の業務を行なう者をいう。この規程で，予防または駆除とは，協会の定める木造建築物の「しろあり」防除処理仕様書に準じて行なう工事をいう。

第3条　業　務

除防士は，その学識と経験に基づいて「しろあり」の予防または駆除の工事を安全に行なうものとする。

2　防除士は，協会が発行する証明書を携行し，要求があった場合には提示するものとする。

第4条　資格の取得

協会が実施する防除士の資格検定試験に合格し，別に定める手数料を納付した者は，協会長これを認証し，協会の防除士名簿に登録する。

第5条　資格の喪失

防除士が，次の各号に該当した場合には，協会長は，理事会の議を経てその資格及びその登録を取消す。

一　会員の資格を失ったとき。

二　業務に不正実な行為を行なったとき。

三　その他ふさわしくない行為を行なったとき。

第2章　資格検定試験

第6条　資格検定試験

防除士の資格検定試験（以下「検定試験」という。）は第3条に掲げる業務上必要な知識，技能につき，原則として毎年一定時期に一回行なう。

第7条　受験資格

検定試験の受験資格は，次の各号の一に該当する者とする。

1　次の大学または学校を卒業したのち，防除施工に関して2年以上の実務経験を有する者。

1　学校教育法（昭和22年法律第26号）による大学

2　旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学

3　旧専門学校令（明治36年勅令第61号）による専門学校

2　次の学校を卒業したのち防除施工に関して4年以上の実務経験を有する者。

1　学校教育法（昭和22年法律第26号）による高等学校

2　旧中学校令（昭和18年勅令第36号）による中学校卒業程度を入学資格とする修業年限3年以上の教育を行なう各種学校

3　次の学校を卒業したのち，防除施工に関して6年以上の実務経験を有する者。

1　国民学校初等科修了程度を入学資格とし，修業年限を5年とする旧中学校令（昭和18年勅令第36号）による学校

2　国民学校高等科卒業程度を入学資格とし，修業年限3年（ただし夜間は4年以上。）とする旧中学校令（昭和18年勅令第36号）による学校

4　防除施工に関し，10年以上の実務経験を有する者で，資格検定委員会において前各号と同等と認められた者。

第8条　防除士資格検定委員会

資格検定委員会は，資格検定試験に関する事務を処理する。

第9条　防除士資格検定委員会の組織

資格検定委員会数は，委員15人以内をもって組織し、委員は理事会の議を経て協会長が委嘱する。委員長は，委員の互選によって定め，会務を総理するものとする。

「しろあり」防除施工士規程細則

1.　資格検定試験実施

1　資格検定試験を受けようとする者は，資格検定委員会の定める書類に受験料を添付して，一定の期間内に協会に申込みをしなければならない。

2　資格検定試験は，次の事項について筆記試験を行なう。

(イ)　シロアリの昆虫学的知識

(ロ)　シロアリ防除薬剤に関する知識

(ハ)　シロアリ防除処理施工の知識

(ニ)　木造建築物のシロアリ防除処理仕様書に関する知識

(ホ)　建築に関する知識

3　資格検定委員会は，受験者に対して，防除士規程第7条に定める資格の認定を行なう。

4　資格検定試験等の手数料は，次のとうりとする。

資格検定試験手数料	3,000円
登録手数料	10,000円

5　資格検定試験等を受けるに必要な事項は，申込締切日の3ヶ月前に会員に通知する。

2.　資格検定委員会の運営

1　資格検定委員会は，委員の半数以上の出席がなければ，これを開くことができない。

2　受験資格の認定及び試験の合否は，出席委員が行なう無記名投票の3分の2以上をもって決定する。

3　資格検定委員会は，試験の事務に関し，臨時に試験委員を委嘱することができる。

第12回しろあり対策全国大会開催案内

主　　催　社団法人　日本しろあり対策協会

と　　き　昭和44年２月27日（木）28日（金）午前10時より

ところ　虎の門共済会館ホール　東京都港区赤坂葵町２番地　電話(583)５３８１

第１日行事　　２月27日（木）

1　挨　　拶　　社団法人日本しろあり対策協会会長　大村巳代治　10：00—10：10

2　総会行事　　10：10—11：00

(イ)　昭和43年度事業実施報告について

(ロ)　昭和43年度収入支出決算報告について

(ハ)　昭和44年度事業計画（案）の承認について

(ニ)　昭和44年度収入支出予算（案）の承認について

3　表彰式　　11：10—11：30

4　講演会

(イ)　欧州におけるしろあり問題について

農林省林業試験場　農学博士　森本　桂　11：30—12：30

昼食休憩　　12：30—13：20

(ロ)　第13回国際昆虫学会見聞記　　農学博士　酒井清六　13：20—14：20

5　研究会

(イ)　しろありの被害の実態調査について　　司会者　雨宮昭二　14：30—15：30

(ロ)　しろありの防除処理仕様書の改正検討について　　15：40—16：40

（併せて耐火建築物のしろあり防除について）　　司会者　河村　肇

6　懇談会　パーティー　　17：00—19：00

(イ)　会長挨拶

(ロ)　来賓祝辞

(ハ)　乾　　杯

第２日行事　　２月28日（金）

1　研究会

(イ)　地方公共団体と協力態勢の確立について　　司会者　前岡幹夫　10：00—11：20

(ロ)　防除月間の実施方法について　　司会者　中島　茂（森八郎）

2　映画上映

霞が関ビル建設記録映画　　11：25—12：00

昼　　食　　12：00—13：00

3　見学会　参加会費　¥500—（当日の昼食代を含む）

(イ)　霞が関ビル　36階展望台　　13：30—14：30

(ロ)　皇居参観新宮殿　　15：00—16：30

解　　散

しろあり　No. 10　2月　1969
社団法人　日本しろあり対策協会

社団法人設立記念特集号

目　次

巻頭言……大　村　巳代治……(1)
≪祝辞≫
社団法人化に際して……建設省住宅局長　大津留　温……(2)
御発展のお祝い……林野庁林業試験場長　坂　口　勝　美……(3)
祝辞……日本昆虫学会長　安　松　京　三……(4)
社団法人設立を祝して……日本応用動物昆虫学会長　高　木　信　一……(5)
祝辞……日本木材学会長　米　沢　保　正……(6)
協会の活躍と発展を期待して……日本建築学会事務局長　久保田　正　光……(7)
法人設立を祝して……日本木材加工技術協会長　斉　藤　美　鶯……(8)
今後の発展を期待して……日本木材防腐工業組合理事長　鈴　木　摠一郎……(9)
≪外国よりの祝辞≫
祝辞（ドイツより）……ドイツ国立材料試験所長　G. Becker　……(10)
祝辞（アメリカより）……シカゴ大学名誉教授　A. E. Emerson…(11)
祝辞（アメリカより）……ウイスコンシン大学名誉教授　T. C. Allen　……(12)
祝辞（アメリカより）……ハワイ大学教授　H. A. Bess　……(13)
祝辞（アメリカより）……米国農林省南部林業試験場　R. H. Beal　……(14)
熱帯のシロアリ（祝辞にかえて）……日本昆虫学会副会長　朝比奈　正二郎……(15)
これからが本番……久保田　博……(16)
回想―忘れえぬことども―……前　岡　幹　夫……(18)
座談会　社団法人設立を記念して……(21)
大村己代治・芝本　武夫・前岡　幹夫・中島　茂・森　徹・香坂　正二
神山　幸弘・雨宮　昭二・司会：森　八郎
協会の歩み……香　坂　正　二……(30)
協会のうごき……(31)
しろあり防除施工士事業所一覧……(32)
しろあり防除薬剤認定商品一覧……(39)
しろあり総目次(No.1—No.9)……(42)

日本しろあり対策協会機関誌　しろあり　第10号
昭和44年2月1日発行
発行者　森　八郎
発行所　社団法人　日本しろあり対策協会　東京都港区芝西久保明舟町19番地 住宅会館(4階) 電話(501)3876・2994番
印刷所　株式会社 白橋印刷所 東京都中央区西八丁堀4ノ6

編集委員
森　八郎（委員長）
雨宮昭二*・河村　肇
神山幸弘*・香坂正二
森本　博・森本　桂
（*印当番委員）

SHIROARI

(Termite)

No. 10, Feb. 1969

Published by **the Termite Control Corporation of Japan**

Shiba Nisikubo Akefune-cho 19, Minato-ku, Tokyo, Japan

Contents

Foreword ..... Miyoji ŌMURA ..... (1)

Messages of Congratulations

On ŌTSURU ..... (2)
Katsumi SAKAGUCHI ..... (3)
Kyozo YASUMATSU ..... (4)
Shinichi TAKAGI ..... (5)
Yasumasa YONEZAWA ..... (6)
MASAMITSU KUBOTA ..... (7)
Yoshio SAITO ..... (8)
Sōichiro SUZUKI ..... (9)

G. BECKER ..... (10)
A. E. EMERSON ..... (11)
T. C. ALLEN ..... (12)
H. A. BESS ..... (13)
R. H. BEAL ..... (14)

Termites in the Tropics ..... Shojiro ASAHINA ..... (15)
From now our Corporation has to do lots of work actively ..... Hiroshi KUBOTA ..... (16)

Remembrances ..... Mikio MAEOKA ..... (18)

Symposium ..... (21)
Contents of back number (No. 1~No. 9) ..... (42)

巻　頭　言

大　村　巳　代　治

今回３年越しで日本しろあり対策協会の法人格が公認されたことは喜ばしい次第です。昨年は承認の瀬戸際で，世間に悪評の立った公益法人問題で全体の再審査等の噂も出て慎重に取扱われることになり，再提出案を慎重審査の上，承認されたのですから私共当事者としては責任を果した喜びは大きいものであります。

私が先年ある公益法人を設立した時の例では割合いに簡単に認可されたが，反面その担当部局は無関心で何の指導も監督もされませんでした。今度の場合は役所が尻押しして設立する公益法人と同じ位面倒を見られております。それだけにその掌にある私共は充分注意して運営に当らねばなりません。

本会の目的を一言にして述べればしろあり被害の絶滅を期しての啓蒙宣伝の仕事でありますが，活動の源泉である財源が社団法人の性格上会員の会費が主であり，収益事業等は付随的生産で財源として期待すべきではありません。従って会費の増額の六ケ敷い今日会員の増加を計らねばなりません。この点未開拓の分野のしろありの被害者層を狙うべきではないかと思います。この点で全会員にお願いしたいのは手近かな被害者の入会を皆さんで誘めていただくのが望ましいと考えます。

公益法人としての発足に当り希望はこのほか沢山ありますが，この際特に会員諸士にお願いしたいことは公益法人である心構えとして不当の競争等で批判を蒙るような事態を惹起せぬ様に自戒し，相協力してしろあり撲滅に努め、公益法人の一員としての品位を高めようではありませんか。

一言希望を述べて新年のご挨拶に代えます。

（本会会長）

社団法人化に際して

——科学技術の浸透——

建設省住宅局長
大　津　留　温

終戦時には，殆んど焼野原であった各都市も，現在では往時にまさる復興ぶりを示している。大都市においては，なお住宅の足らぬことや公害その他の新しい問題をかかえているが，わずか20年余の歳月でよくぞここまで来たものと思う。

もちろん国民経済の伸展が，これを導いていることに異論はないが，これを支える科学技術の進歩の裏付けがあったからこそなし遂げられたものであろう。

建築もプレハブ化，不燃高層化の技術は，いまや超高層ビルの実現にまで達し，その進歩のあとがまざまざと目にうつり，大変よろこばしい。

しかしながら，この目を奪うはなやかな建築の進展の陰にも，まだまだ幾多のアンバランスや未解決の重要な問題が，残されていることも事実である。

国民の福祉にとっては，先端の科学もさることながら，もっとも必要なのは，科学技術の国民大衆つまり底辺への浸透ではなかろうか。

また，最近わが国においてもようやく社会資本の蓄積が問題視されるようになった。蓄積は単なる投資の総合計で決まるものではなく，そのそれぞれが適正に管理保全されていることが必要条件である。いまなお日日の新聞は，火災のいたましい被害を報じているし，台風や地震があれば，ばくだいな人畜家屋の損害を伝えてくる。

技術の普及，とくに管理保全の技術の普及こそ，今日もっとも要求される事項ではないかと思われる。

しろあり対策はまさにその一つである。しろありの被害は，地震，台風や火災のようにはなやかなものではない。しかしながら，その建築の日日の損耗は，火災以上ともいわれているし，さらにこれが地震や台風時の被害を助長しているとすれば，これは一日も放置を許さない問題といえよう。

当協会が，その使命感に燃え，このじみな科学技術の普及に設立以来10余年を営々と取り組んでこられた姿にあらためて敬意を表したい。

今回さらに，社団法人として許可をうけ，一段と事業の飛躍発展を期しておられる。個人の財産の保護はもとよりのこと，貴重な社会資本の保全者として，一層研究ならびにその普及に精進されんことを希望する。

御　発　展　の　お　祝　い

林野庁林業試験場長　農博
坂　口　勝　美

このたび，日本しろあり対策協会が，社団法人として御発展になりましたことを，心からお祝い申しあげます。

顧みますと，本協会は現在考えられる最良のシロアリ防除方法を「木造建築物のしろあり防除処理仕様書」として規定され，また防除薬の検定を行ない防腐効力のあるものを認定してこられました。さらに実際の防除には，シロアリ・建築・薬品などの知識を必要としますので，これの優れた人をシロアリ防除施工士として検定の上登録されております。これらの運営に関し，本協会は役員・顧問・参与はじめ，防除士資格検定・防除薬剤認定・防除処理仕様書検討・被害調査などの諸委員会に，わが国のシロアリに関する権威者をあつめ，わが国のシロアリ対策に誤りなき着実な指導のもとに，絶大な貢献をしてこられました。

本協会のこれら不断の活動と貢献に感謝と敬意をはらうのは，まず国であり，また直接的に間接的に利益と恩恵をうけるのは国民であると存じます。

シロアリは，石炭期の初期に，この地球にあらわれ，原生動物と共生するという，きわめて古い特種な虫であります。国立林業試験場では明治の終りごろ矢野によって研究が行なわれ昆虫学会において広く注目されておりましたが，その後久しく中断されておりました。しかしながら，一般には被害の正確な把握もない現状であり，防除面では防除薬の持続性の開発などが必要であり，さらに共生原生動物や木材腐朽菌との関係など幾多の研究問題が山積しております。これには研究手法としてシロアリの室内飼育をはじめ，木・菌・シロアリに関する基礎的研究を展開しなければなりません。一方シロアリの被害は人類に対し莫大な経済的損害を与えていることや重要文化財の大敵であることがわかるとともに，次第に世論の防蟻に対する要望がたかまりました。そのため数年前に国立林業試験場保護部昆虫第一研究室の研究施設を拡充し，積極的に研究を推進いたしております。とくに，東南アジア開発途上国をはじめ熱帯圏におけるシロアリ問題は重要な研究課題であります。アメリカはじめ，フランス・ドイツなどでは，一つの研究機関ないしそれに準じた姿で活動しているときいております。

このたび本協会が社団法人として発足されるにあたり，こんご一層の御発展と御活躍を祈りますとともに，官民相い提携して防蟻の研究と技術が画期的に発展いたしますことをこい願う次第であります。

祝　　辞

日本昆虫学会々長　九大教授　農博
安　松　京　三

このたび，日本しろあり対策協会が，社団法人として認可されたことは，その重要性からみて当然のこととは申せ，まことに同慶に堪えない。

今後，木材の交流の活溌化，運搬のスピードアップなどに応じて，シロアリの分布区域の人為的拡大の傾向は，ますます増大することが考えられる。今日まで，人為的に，新しい国に侵入し，土着したシロアリは約19種にも及び，また，植物検疫で新しい国への侵入を未然に防止された種類は，実に37を数える。西印度諸島から中南米が原産地である *Cryptotermes brevis* の如きは，今や，ハワイ諸島，フロリダ州，ルイジアナ州，マーケサス諸島，ミッドウェイ島，セント・ヘレナ島，中国，ニューカレドニア，イースター島，南アフリカ，それにカナリー群島に広く分布土着するにいたっている。

シロアリの被害は全世界に及んでおり，将来の住居の構造の世界的均一化や，暖房設備の普遍化のみを考えてみても，その基礎的研究，防除対策の開発は，今後とも国際的視野に立脚して行なわねばならないのである。

日本しろあり対策協会が，社団法人となったことは，今後のわが国のシロアリ研究と対策が，飛躍的に発展する確固たる基礎がうちたてられたことを意味し，また，一般の期待もさらに大きくなったものと考えてよかろう。私は，日本しろあり対策協会が，前向きの姿勢で，次々と必要な対策を樹立実行され，人類の福祉のために貢献されるようにお願いし，お祝の言葉としたい。

社団法人設立を祝して

日本応用動物昆虫学会々長
農林省農業技術研究所昆虫科長　農博
高　木　信　一

わが国のシロアリについては，千年も前から記録に見えていた(矢野1909)ようであるが，なんといっても，1907年，約60年前に当時学校を出たばかりの大島正満氏が，動物学雑誌にその生殖のことを書いた時から，本当に近代の中で認識されるようになったと云えるであろう。その頃の学会雑誌で行なわれた大島・矢野両氏の討論は，今見ても彼らの熱気をじかに感じるような激しいものであるが，文語体の外交辞令の中に巧みに辛らつな攻撃を含めた攻防戦は，真に見事なものであった。この中で，矢野氏は正統派の立場をとり，シロアリの分類上の目の問題でも，日本における分布の問題でも，ニンフ　nymph　という言葉の問題でも，おそらくすべての面で勝を収めているが，その頃の新進の昆虫学者が，専門違いの大島氏の勝手な議論を許せないとする気持もわかるような気がする。一方学生時代に台湾に行き，シロアリの大被害を目のあたり見て奮起した大島氏が，自ら学者の装を捨てて実際問題に飛び込み，名を捨てて実を取った功績も大きいと云わなければならない。大島氏が1909年に出している第１回シロアリ報告では，もうすでに大部分の誤りは修正されており，何よりもシロアリが社会の中に正しく害虫としての地位を確保するようになった原動力としての意義は大きかった。学術論文というものは，一言半句もおろそかにすべきものではない，一年はねかせておいて再度第三者的に読み直してから提出せよとの先輩の教えもあるが，応用の立場は時として対象の害虫を総称か俗称で捉え，対策としては経過を抜きにした結末だけで考えるということが必ずしも悪いとは云えない場合がある。もちろん，理論的な推論から立派な対策が出て来る場合も多いが，その理論が完成するまでに長年月を要していては，その間に「テラダオシ」によって寺が倒れてしまうことになりかねない。

大島氏の時代でも，シロアリ耐性の樹種の問題，木材の加工の問題等かなり研究されており，研究の成果は，今も台湾の現地では建築上に現われていて，高く評価されているという。

さて，台湾は戦後外国となり，応用昆虫学者も農業や衛生の面に集中して，シロアリの問題は建築や古美術関係者に委されるという事態になると，やはり専門家でないだけに色々の問題があり，一部の防除業者がなんとか対策を担当するという状態であった。国や県にも対応する部局がなく，研究の面でも幾つかの領域にまたがるという困難な条件のもとで設立されたシロアリ対策協会の存在意義は大きい。

世は農薬の第３期に入っているといわれる。安松氏の「しろあり」第９号の巻頭言にもあるとおり，シロアリ対策も単なる殺虫や被害の回避の域を脱して，昆虫の行動学に基礎をおいた防除剤や物理的な方法が考えられねばならぬ時が来ているかも知れない。日本しろあり対策協会はいよいよ法的な基礎も確立したことであり，今後事業が躍進的に発展することを期待する。

祝　　辞

日本木材学会々長
農林省林業試験場林産化学部長　農博
米　沢　保　正

今回，日本しろあり対策協会が建設大臣により社団法人組織として許可されましたことは，しろありの被害防除の対策に多年尽力されておられる貴協会にとって，誠に意義あることとお喜び申しあげます。

おもうに，しろありの被害対策が西日本地区にて，はじめに論議されてから，すでに10数年を経過し，その間，斯界の先駆の方々により，その予防と駆除に対策が立てられ，貴協会の前身である西日本蟻害対策協議会，さらには全日本しろあり対策協議会が設立され，防除薬剤認定事業，防除施工士の設定，協会誌しろありの刊行等，しろあり対策に着々と成果を収めつつあることは，衆目の一致して認めるところであります。

しかしながら最近しろありの被害が東日本にも広がりつつあり，木材資源の有効利用の見地から，新しい木構造物の耐久保存はもちろんのこと，過去の文化的遺産の健全な保持は現時代のわれわれの責任であると考えられます。

さらに目を外に向けますと，東南アジア地区におけるしろありの被害は，その気候的条件に助長されて，予想外に大きく，木材資源の損失はきわめて大なるものがあります。

このときにあたり貴協会が社団法人としてその基盤を確立され，益々発展されますことは，一つにわが国のみならず，広く諸外国に対しても，きわめて重要な意義を有するものであると考えます。

日本木材学会としましても生物劣化研究会をもち，一部において，その防除対策について基礎的研究活動が行なわれており，ともども相協力して，所期の目的を達成したいと念願しているものであります。

終わりに貴協会のご発展を心からお祈り申しあげます。

協会の活躍と発展を期待して

日本建築学会事務局長
久保田　正　光

私は毎年梅雨が明けると九州に居た頃の事を思い出す。今から13年程前の話であるが，始めて熊本県の建築政行を担当していた頃の事である。関東，東北に住んでいた私は白蟻の恐ろしさや被害については全く無智であった。ところが熊本に赴任して見ると県営の建築物や民間の建築物で白蟻の被害にかかるものが次々と出て来て特に梅雨明けにはその繁殖がひどいのである。地元のラジオや新聞は白蟻対策の特輯をすることになり立場上私に放送依頼をされたり，新聞に原稿依頼をされたりしたものである。そこで私は方々聞いて廻り，勉強をした。宮崎大学の農学部の中島先生や福岡県の建築課の研究者に教えてもらった。白蟻の種類は地球上1800余種もあることや日本では主な種類は５種類で特にヤマトシロアリとイエシロアリの被害が多いことなど所謂基礎的な知識から勉強したがその対策等になると仲々むづかしいことで，知り得た範囲で一人前の白蟻研究家の様な口振りで放送したことが今考えると慚愧にたえない。当時建設省の建築指導課長であった前岡さんがこの問題に取組んで居られ全日本しろあり対策協議会を設けられたので私も入会して，資料もいろいろ頂いて地方行政に役立たせる様にした。いまだに覚えているのは熊本市健軍町の県営住宅の柱の下部がヤマトシロアリに食い荒されて空洞になり柱の役に立たなくなったことや，同じく屋根裏にイエシロアリの大きな巣があって驚いたことなど昨日のことの様に思い出される。当時は白蟻の棲息地は和歌山県以西が主と云われていたが私が熊本を離れてから名古屋まで東進したと聞いた。最近では関東でもこの被害が及んで来たと聞いているが、全国的に白蟻対策を確立しなければなるまい。特に最近出来て来た新建材や新構法なども他の面では優れていても白蟻対策の眼から見れば果して優れているであろうか，これから白蟻対策を新材料や新構法の検討に加えてもらいたいと思う。

この度建設大臣許可による社団法人として一層の飛躍することになったことは，しろあり対策の重要性が一般から大きく認められたことで誠に慶賀にたえません。会員一体となって一層の活躍と発展を期待して御祝の言葉に代えさせていただきます。

法人設立を祝して

日本木材加工技術協会々長
日本大学教授　農博
斎　藤　美　鶯

全日本しろあり対策協議会が，昭和40年４月日本しろあり対策協会に改組され，今日まで広汎な活動を続けてこられたことに，深甚な敬意を表するものでありますが，このたび社団法人として新しい御発展に向って躍進されることは，わが国木材工業の興隆を希う者の１人として，まことに慶祝に堪えません。

古来わが国の住宅は木造であり，木材は建築主材として数千年の歴史をもっております。そして，その居住性の優れていることは，あえて口にする必要がないほど，国民一人一人の中に滲みこんでおります。最近都市化の進展に伴って，火災に対する配慮が重要視される結果，木材が燃えるということが木材のもつあらゆる居住性の良さを帳消しにしてしまうような論がありますが，とんでもないことだと存じます。なるほど，木材は燃えるということの他にも，狂うとか腐るとか，いろいろの至らないところがあります。蟻害を受けるということもその一つであります。

しかし，科学の進歩はこれらの至らないところを改良して，木材が住宅資材として優れた面だけを発揮させることができる時代となったことを銘記すべきでありましょう。かくて製造されたものが，いわゆる改良木材なのであります。しかし，木材の欠点をただ改良したということではなく，木材のもつ欠点を除いて本来の優れた性質を遺憾なく発揮させたもの，という積極的な内容をもったものと考えるべきでしょう。そして，これらの製品がいままでの木材というイメージを払拭して，新しい木質材料として価値高く使われるべきだと信ずるものであります。防蟻材はまさにこのような意義を負うものと存じます。

現在，関西以西にはびこるイエシロアリの被害が静岡地方までも入り，ヤマトシロアリも関東から東北にかけてその被害が目立ってまいりました。通風の悪いコンクリート基礎やモルタル塗建築が多くなってきた現在，防蟻はいっそう重要な意義をもってまいり，とくに九州地方などでは防蟻は防腐より大事なことだといって決して過言ではありますまい。

由来，しろありに関する専門研究者が非常に少かったということもあって，防蟻の実際は主として経験に基く秘伝的技術に頼っていたようであります。しかし今日の蟻害の実態を見ますと，いわゆる学識経験者が打って一丸となり，情報の交換と学術の交流の上に立った防蟻技術の確立が拮緊のこととして要請されているのを痛感いたします。

この秋において，貴協会が設立されたことはまことに時を得たものであり，さらにこのたび法人格を得られたことは，わが国防蟻技術の発展のため力強い基盤をもったものと，わがこととしての喜びを禁じ得ません。重ねて法人設立をお祝い申し上げ，貴協会のいやましの御発展をお祈りいたします。

今後の発展を期待して

日本木材防腐工業組合理事長
大日本防腐木材株式会社社長
鈴　木　摠　一　郎

わが国では木造建物その他木材を使った構造物が多く，また気候条件も温暖多湿でありますから，しろありや腐れに対する保存対策は寿命の延伸，安全性の向上，木材消費の節約などの面からもゆるがせに出来ない大きな問題であります。しかし今までは木材が豊富で安価であったため木材を大切に取扱うという観念が一般に乏しく，建物などの老朽化防止については割合に等閑視されていた傾向にありました。

この点しろあり関係者は早くから建物その他の防蟻対策の必要性を認識され，戦後に多数の方々が集って全日本しろあり対策協議会を設立されましたが，今日まで被害の調査，防除技術の向上，薬剤の認定，防除施工士の資格検定，防除週間の開催，会誌の発刊などいろいろの事業活動を活溌に行って来られました。その結果わが国におけるしろあり防除に対する一般の関心も高まり，対策も飛躍的に発展すると云う大きな成果をあげられましたことは，これ偏えに協会並びに会員の方々の熱心な努力が報いられたものと深く敬意を表する次第です。しかしわが国のしろあり防除問題はまだまだ解決すべき重要な課題が多く残されていると思います。従って今まで任意団体であった協会も今後さらに対外活動を幅広く推進されるために，この度組織を改組され社団法人として正式に発足されましたことは，誠に時宜を得たものと心から喜ばしく思う次第です。

もともと建物などのしろありや腐れによる被害は同じような条件や場所に生じますので，防蟻と防腐は絶対に切り離せない措置と思います。特に防蟻処理の場合は予防措置に重点をおく必要がありますので，出来るだけ防蟻防腐処理した木材を使用することが建物などの耐久性を確実に高めるための最良の手段と思います。幸い私共の日本木材防腐工業組合でも3年前に法人組織に改組しましたが，その後組合としても防腐と防蟻の両方の性能を持った建築用の保存木材の開発に努力を続けております。従って今後は防腐としろあり防除関係者は相提携して建物その他を腐れやしろありの被害から守る運動を積極的に行ってゆくことが是非とも必要と考えます。この意味でこの度社団法人日本しろあり対策協会の新しい発足は，友好団体としても特に喜ばしく，今後ますます両団体の共に健全な発展を期待してやみません。

ドイツ聯邦共和国材料試験所長　教授

ベ　ッ　カ　ー　博士

西ドイツにおける木材防腐防蟻分野の代表者であるとともに，FAO，IFURO，OECDなどにおける木材防腐防蟻関係研究グループの委員長であって，世界のこの分野における指導者でもある。シロアリの生態ならびに防蟻に関する研究論文も多数発表されている。

Termites are serious destroyers of materials in countries with warm climate. They therefore are of significance for the economy of Japan, too.

It is understood from Professor Dr. Hachiro Mori that "The Japan Termite Control Society" has recently become "The Japan Termite Control Corporation". This organization continuing the activity of the former Society presided by President Miyoji Omura, Professor Dr. Takeo Shibamoto and other well-esteemed scientists will surely be of high benefit to the country. Studies and comparative testing and evaluation of preservatives and preservation methods for control, eradication and protection as well as their proper and effective application are an important task for the Corporation. The necessity of solving problems of the practice is connected with contributions to the general knowledge of termites and their biology.

Best wishes for a successful work of the "Japan Termite Control Corporation".

Günther Becker

Professor Dr. Günther Becker
Bundesanstalt für Materialprüfung
Berlin-Dahlem, Germany

シロアリは温暖な国々における多くの材料のはげしい破壊者であります。それ故に日本の経済のためにもまた非常に重要な意義をもっているものです。

「日本しろあり対策協会」が最近「社団法人日本しろあり対策協会」になったということを森八郎教授から承りました。大村巳代治会長，芝本武夫教授をはじめ多くの有能な科学者らによって運営されている旧協会の活動を継続するこの組織は，日本の国に対して非常に貢献するものと確信いたします。シロアリの防除絶滅と木材保護のための薬剤および処理方法ならびにその有効適切な適用についての試験研究と評価は協会の重要な任務であります。シロアリの実際的問題を解決することの必要性は，シロアリとその生物学に関する一般知識へ貢献することと密接に結びついています。

おわりに"社団法人日本しろあり対策協会"の今後の発展をお祈りいたします。

シカゴ大学名誉教授

エ マ ー ソ ン 博士

生態学・動物地理学・分類学，とくにシロアリ学者として世界的有名人であり，アメリカ・アフリカのシロアリ調査，シロアリの社会生活，古代と近代のオオシロアリ属の修正など，シロアリに関する多数の論文を発表している権威者である。

I am glad to learn of an improved organization in Japan that aims to control the damage of termites and to serve the economic interests of the people and institutions.

In addition to the control practices, I hope The Japan Termite Control Corporation fosters research on the social life and ecology of these insects. Much of value to basic biology may be learned from detailed information about termites.

It is with pleasure that I remember my visit to Japanese institutions and hope our countries continue to cooperate for mutual interests in various fields of science. To my mind, Japan and the Japanese people have fully joined the advance of civilization that depends to a marked degree on the increase of scientific knowledge in all fields.

With cordial personal regards, I am
Very sincerely yours,

Alfred E. Emerson

Alfred E. Emerson,
Professor Emeritus of Biology
University of Chicago

シロアリ被害の防除と，国民ならびに研究機関の経済的利益に資することを目的とする日本の協会が，法人化したことを知って喜んでおります。

社団法人日本しろあり対策協会が，防除の実施のみならず，それに加えて，シロアリの社会生活や生態学に関する研究を推進させることを望みます。基礎生物学におおいに寄与することが、シロアリに関する詳細な情報から学ばれるでしょう。

わたくしが日本の諸研究機関を訪問したことを思い浮べ，そして，わたくしたちの両国が，科学の各種の分野において，相互の利益のため，不断に協力することを望むことこそ，まことに欣快であります。わたくしの考えでは、日本と日本国民は、すべての分野における科学知識の増大ということにおおいに依存している文明の進歩に，十分に参与してきたと思います。

敬　具

ウィスコンシン大学名誉教授

ア　レ　ン 博士

ウィスコンシン大学農学部昆虫学研究室主任教授として長年シロアリの研究に従事され，定年退職後，リンフィルド大学に移り，同大学の研究室で，現在なおシロアリの研究を続けておられる。シロアリの誘引物質の研究，防蟻コンクリートの研究などで有名である。昭和38年夫人同伴来日，東京・京都で講演された。

It was a pleasure to hear from you and to receive your Christmas greetings. I am sending this following statement for possible use in Shiroari as a news item relative to the change in name of the Japan termite organization.

"I have learned that the Japan Termite Control Society has been recently renamed and in the future it will be known as the Japan Termite Control Corporation. A few years ago. while in Japan I had the pleasure of meeting various members of this organization and I wish to send my congratulations on the advancements being made within this group."

Most sincerely,

Thomas C. Allen
Emeritus Professor of Wisconsin University
Professor of Linfield Research Institute,
McMinnville, Oregon

お手紙ならびに新年のご挨拶をいただき，ありがとう存じます。日本しろあり対策協会の改名に関し，「しろあり」の記事として，次の祝辞をお送りいたします。

今回日本しろあり対策協会が改名し，今後社団法人日本しろあり対策協会となられることを承知しました。2，3年前，わたくしが日本に滞在中，協会の皆さんとお会いする機会を得ましたが，これらの方々によって協会が一段と発展されたことをお祝い申し上げます。

敬　具

ハワイ大学教授

ベ　　ス　博士

ハワイ大学農学部の現役で活躍している教授で，等翅目（シロアリ類）・膜翅目（ハチ類）の研究で有名であり，日米協力科学研究のメンバーとして再三来日されている。

Congratulations to your recently incorporated organization, "The Japan Termite Control Corporation", which grew out of your voluntary body, "The Japan Termite Control Society". I am sure that you have contributed a great deal to progress in pest control through your association as the founders and directors of the Society. My sincere personal good wishes to you and to the success of the newly formed Corporation.

Sincerely yours

Henry A. Bess

Henry A. Bess
Senior Professor and Entomologist
Department of Entomotogy
University of Hawaii
Honolulu, Hawaii

任意団体の日本しろあり対策協会が最近社団法人日本しろあり対策協会になったことをお祝い申し上げます。皆さんが創立者として，理事として，協会を通じ，防除の進歩におおいに貢献されたと信じます。わたくしは衷心より皆さんのご健康と新協会のご成功を祈ります。

敬　具

米国農林省南部林業試験場木材害虫研究室

ビ　ー　ル　博士

わが国で大害を及ぼしているイエシロアリが，タイワンからアメリカにはいり，南部諸州に定着し，年々その分布圏を拡大しつつあって，現在アメリカの重要害虫として対策が考究されているが，ビール氏はこの問題の中心人物として活躍中の人であり，わが国との研究情報の交換，とくに日本しろあり対策協会の出版物を強く望んでいる。

We, here at the Wood Products Insect Laboratory, congratulate you on your success in establishing "The Japan Termite Control Corporation". Let us wish you the best of luck and we hope that you have many years of fruitful existence. As you well know, we are also extremely interested in termite control, and let us hope that our constant correspondence will keep us all informed as to the best possible solution for termite control. I would certainly appreciate being kept informed of your meetings and, if at all possible, would like to receive any articles or bulletins that you publish in the future.

Sincerely yours

Ray H Beal

Ray H. Beal
Entomologist
United States Department of Agriculture
Forest Service
Southern Forest Experiment Station
Wood Products Insect Laboratory

わたくしども木材害虫研究室においては，社団法人日本しろあり対策協会の設立に成功されたことについて，皆さんにお祝を申し上げます。ご繁栄を望むとともに，末長く実のりある存在たらんことを期待します。ご承知のように，わたくしどももまたシロアリ防除に非常な関心をもつものでありまして，最良のシロアリ防除法についての緊密な情報交換を望んでいます。貴協会の動静をお知らせいただければ，まことにありがたく，また，できれば今後の貴協会出版物や機関誌をお送りいただきたく存じます。

敬　具

熱帯のシロアリ

国立予防衛生研究所衛生昆虫部長
日本昆虫学会副会長　理博
朝比奈　正二郎

温帯の日本でこそ，シロアリは害虫として以外なんらのとりえのない昆虫のように扱われているが，生物学的にみると，広く地球上にひろがる重要な昆虫の一群として，もっともっと，日本の科学者の関心をはらってもらわねばならないと思う。

正直のところ，日本のシロアリ類は，「昆虫」としてはあまりパッとしないのであるが，熱帯のシロアリについては，戦争中マレーに行っておられた高橋良一博士も，同博士一流のキメの細かい頗る面白い観察を書いておられる。私自身も実際に多彩なシロアリの生活を見て，彼らが昆虫の一員として華かに栄えていることを知ったのは，タイでの1か月の野外調査の時であった。雨期の始まりで，時期もよかったのかも知れないが，昼も夜も，木の上にも，土の上にも，空中にも，穴の中にも，巣の周りにも活動し，おとなしいシロアリもあれば，指にかみつくシロアリもあり，白いシロアリ，黄色いシロアリ，茶色いシロアリ，黒いシロアリもあり，この時一緒に行ったM博士は50種類以上の収穫をあげた。シロアリがパッとした昆虫であることの印象はまことに強かった。

またカルカッタからダージリンに行った時のことであるが，3月といえばインドは乾燥期の暑い時で，登山の合乗り車がとまっていた山麓のバグドグラ飛行場には，焼けた砂地がひろがり，焦熱地獄の感があった。粗末な煉瓦やどろを積んだ家ばかり見て来たのに，車が山麓に近づき，茶の栽培地が現われ，熱帯広葉樹の林に入り，猛獣のいるという自然保護区を通りぬけ，傾斜がだんだん増して，植物相がパノラマを見るように変化して行き，ヒマラヤ前山の尾根上，海抜2,100メートルのダージリンまで，このような植物相の変化とともに，ふと気がついたのは，家屋を造っている材料の違いであった。斜面を登って，より温帯的な高度に達すると，木造の家屋が次々と現われて来たのが鮮明に印象に残った。見方に問題があるかも知れないが，この時，シロアリに破壊し尽されるような木造の建物はインドの低地では残り得ず，わずかにヒマラヤ山中にのみ存在し得るものかと思った。タージマハールを筆頭に，その時インドの低地で見た歴史的な建造物はすべて石ばかりであったからであろう。シロアリは人類文化を制限する一つの因子ではなかろうか。

（熱帯のシロアリ観察記を紹介し，社団法人設立に対する私の祝辞にかえます。）

これからが本番

久保田　　博

日本しろあり対策協会発足以来，永年の待望であった本協会がいよいよ法人として新発足する運びとなったことは，吾等は天にも昇る程に喜びに堪へない次第であります。ここに到るまでの過程には幾多の困難があったことですが，良く之を切り抜けて来られた当局者のなみなみならぬ御努力に対して茲に改めて心から深謝奉る次第であります。

処で吾が協会の活躍の舞台は是からがいよいよ本番であって，今日までのいささかマンネリ化しがちな行き方から百尺竿頭一歩を進めるべき重大な時期が到来したと痛感致しますので，今日まで本紙を通じて私がしばしば会員に訴へて来た処を茲にダイジェストして，私自らの反省とすると共に会員皆様の再批判を御願いしたいと思います。

1.　防除工事に対する責任施工の問題

責任施工の問題は本誌上で幾度か論ぜられて来た問題ですが，未だ協会としての統一見解が発見されていないことは誠に遺憾に堪へません。統一見解が見出されない理由は色々と複雑な問題が錯綜していることも重大な理由の一つでありますが，一方之と並行した大きな理由は吾々防除士が此の問題解決に対する熱意と研究の不足にかかわることではあるまいかと思われる次第であります。然しここでは錯綜している複雑な問題の一部に就てのみ私の見解の一端を述べて見ることに致します。吾々が防除士資格獲得に際して，提出を要求された誓約書の中に『使用薬剤は認定薬剤とする』と云う一項目があります。従って吾々は認定薬剤以外の薬品は，それが如何に効果的な薬剤であっても使用してはいけないと云うことに，一応縛られた形となっている訳です。問題は其処に発生すると思います。

責任施工と云ふことは施工技術のみの責任を問うのではなく，使用薬剤の問題も当然含まれるものと解すべきではあるまいかと思います。施工技術の責任は申すまでも無く防除士の責任に係る問題ですが、薬効の責任は，それを使用することを義務付けられている防除に負わせることは何とも不合理なことで，之は薬剤の製造業者の責任とするか或は之を認定した責任者に負わせるべきであると考へることは行き過ぎた考へ方でありましょうか？　責任施工に関する協会の統一見解を見出すためにはこの問題の解決が先決されなければならないと思います。紙面を省くために次に私の意見を簡単に述べて皆様の御考へを拝聴したいと思います。即ち『使用薬剤は各自が責任施工をするに足ると認める薬剤とすること』誓約書の文面を此の様に変更することによって此の問題の糸口は解決するものと考へる次第です。斯くすることによって技術の責任も薬効の責任も一切防除士が負うことになり，又防除士は薬剤の選択に従来以上の注意と努力を要求される結果となり，防除士の質の向上にも資するのではあるまいかと思ひます。責任保証の期間其の他の問題は案外簡単に解決出来るかと考へます。

2.　しろあり防除モデル地区設定に関する件

此の問題に就ては本誌第4号に私見を発表したのでありますが，しろあり予防に対する関心は未だ全国的には極めて低く，其の効力に就ても信頼度が甚だ薄い様に思ひます。当宮崎県は各方面の努力により相当関心が深まっている地方であると考へているのですが，それでも現在予防工事をしてある木造家主は20%に満たないものと推定している状態です。

現在日本の木材の輸入は金額にして鉱油に次ぐ第二位となっております。学者の計算によりますと，若しも日本全国のしろありの食害を絶無にすることが出来るならばこの莫大な木材の輸入は必要ないことになる。と発表されたことを記憶して居ります。炎の出ない火災と云われる大変な災害の量を思い知ることが出来ます。私共しろあり防除士は現在全国で僅か600名そこそこの少ない員数ではありますが，技術の練磨によって輸入木材を必要としないと云うような国家的大事業の一端を担い得ることを誇りとして日夜御互に励み合って居るのであります。然るに全国一般のしろありに対する関心が上記の様な状態であることは如何にも残念でたまりません。此の状態を打破する最も効果的な方法として提案致しますのが『しろあり防除モデル地区設定』の案であります。

即ち，指定された地区（しろあり多発地方，県単位）では公共建物，公営住宅等で木造，モルタル塗，ブロッ

ク建造物の木材部はすべてしろあり防除士による予防工事を施さねばならぬこととする，又住宅金融公庫等の建物も同様に予防工事を施す。防除士は工事終了年月日，使用薬剤名，施工方法其の他必要事項を記入したカードを所属県庁建築課に提出する。満5ケ年を経過した際に，防除士は各施工建物のしろあり被害状況を調査し，被害があれば無償駆除を実施すると共に検査報告書を提出する。以上のカードならびに検査報告書を管理した県建築課は其の資料を協会本部に送り，本部はこれを整理して全国各府県に通報する，各府県は新聞其の他マスコミの機関を利用して之を報道する。此様にすることによってしろあり防除工事の効果は全国民に知らされることになり，従来其の効力に疑念を抱いていた人にも十分に認識させることになる。今日まで数年に亘って実施されて来たしろあり防除週間の効果は非常な良い結果をあげていることは充分に認められるべきでありますが，一般には業者の宣伝ではないか!!　と云う印象を与へた嫌いがないでもない様です。

3.　しろあり対策協会と政治力の提携

しろありの防除はアメリカでは既に法制化されているように聞いて居りますが，吾が国に於て之が法制化に至るまでには尚お大変な時日を要するのではあるまいかと実に憂慮に堪へないものがあります。其の原因の一つは現在の有力な政治家の中にしろあり問題に対する関心が絶無に近いのではあるまいかと考えられます。本協会今後の動きの重大目標の一つとして是非共有力政治家を一，二名協会の理事に迎へ入れる工作が必要ではあるまいかと思います。かつて私が全国大会の席上で発言したことのある『しろあり会館を設立して全国の学者，研究家，製薬業者及びしろあり防除士等関係者が一堂に集って統制のとれた研究をする様にしたら，現在の様に各研究所や大学等で個々に研究しているよりも遙かに便利であり，経済的であり且つ能率的でもあろう』と思われる訳です。而し此の様な企てを具体化するには，どうしても強力な政治力を伴わなければ実現はむづかしいことと思われます。世間には政治家の介入を嫌がる会合もあるように聞きますが，現実問題として本協会の如きは，好むと好せざるとに拘らず政治家の介入は必要だと考へる次第です。

法人化された本協会の活動に就ては未だ多くの案件が残されていると思ひますが，総ての問題を一期に解決することは不可能であると存じますので，法人発足に当り取り敢へず急を要すると思います以上三件を提案して皆様の御批判を仰ぎたいと思ひます。

（西日本しろあり研究所）

回　想 ——忘れえぬことども——

前　岡　幹　夫

—協議会の名称の由来—

かつて珍品の収集で有名な泉都別府の錦水園の主人に聞いたことがある。こんなに集めるのは大変だったでしょうと。その返事はこうである。いや自然に集まってくるもので，今ではむしろ断わる方が大変ですよ。

福岡県庁がしろありでしゅん動しはじめたころ，これに似たことがあった。しろありについてはズブの素人で，ようやく大島正満氏の台湾のしろありの報告書で予備知識を仕込み，まだ暗中模索のときに，さる駆除業者（名前を失念してまことに申訳ない）がハワイの弟から送ってきたので，よかったら読んでくれと一冊の洋書を借してくれた。これがカルホルニヤ大学版の The Termites and Termite Control（しろありとその防除）であった。

辞書と首っぴきで要処要処を拾い読みをさせてもらった。語学は元来得意ではないので，大変骨の折れる作業であったが，それでも前記の大島氏の研究も所しょに引用されているし，面白く，しろありの概念をうるには非常に役立った。まさに暗夜に光明をえた感を覚えたものである。

特に注目されたのは，その調査研究の組織と構成メムバーで，参考になる点が多かった。全米的な組織であるが，西部のカルホルニヤが中心になって行なわれていることも事情が共通である。組織の本体は The Termite Investigation Committee で，へたなほん訳をすれば“しろあり調査研究委員会”であるが，財源その他を考えれば，日本のお役所がよくつくる××委員会とは少しく違うようである。むしろ財団と社団の中間的なものに近いようである。

ついにこの間の整理が十分に行なわれないままに発足しなければならぬ仕儀とはなった。前記委員会に多少こだわっているうちに，いつとはなしに対策協議会という変てこな名称になってしまったのである。

本協会もその名称が転転の経過をへて，“社団法人日本しろあり対策協会”となったが，ようやくその落ちつくところに落ちついたというところであろうか。

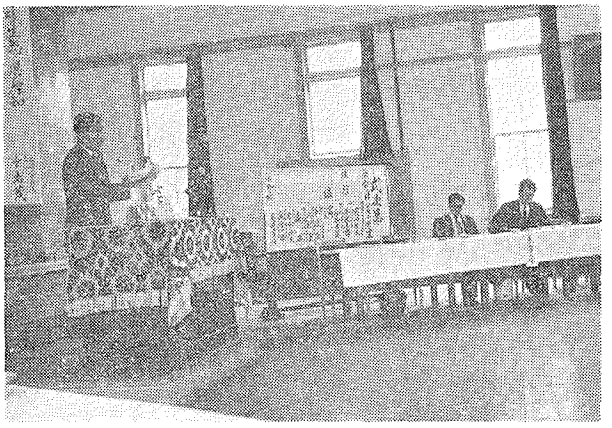


写真１　西日本しろあり対策協議会発足時の総会

—協議会を支えた人びと—

事業は人なりといわれるが，協会が今日社団法人として認可をうけ，ようやくその基礎が固まるにいたった陰には，過去に数多くの方がたの地味な協力があったからこそである。

西日本蟻害対策協議会の発足は，福岡県建築部の連中が中心になって動いたことは事実である。当時の建築部長の宮脇晴美氏（現在住友建設常務）の暖かい抱擁力と適切な指導によって，誕生をみ，育まれたといっても過言ではない。氏には，その後発展解散にいたるまでのその過半を会長として尽力して頂いた。

実務は松井高明氏（現大分県建築課長）や和田吾市氏（福岡市で設計事務所経営）および宮崎県から割愛を願った専門家の吉野利夫氏を中心に，菅，三輪，本河の諸氏の技術的協力によって行なわれ，事務面は有働（ハタラキアリの異名もあった），柿原，杉浦の諸氏の積極的な援助によって遂行されたものである。

この間，森徹建設省建築研究所部長（現鹿島建設），中島茂宮崎大学教授（現同農学部長），野村孝文鹿児島大学教授（現九大）その他の懇切な指導と助言を仰いだ。特に有力な牽引力となって頂だき，忘れることのできない方として大坪さんがいる。氏は防除業界の元老的存在であり，高潔な人格は，接するものをして敬服させずには

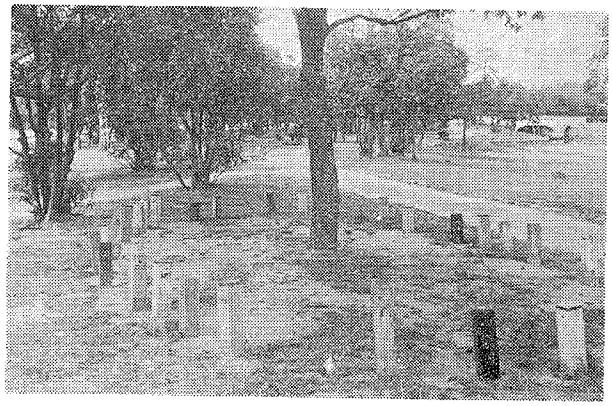


写真2 大濠公園(福岡市)の杭のフイールド試験の外観

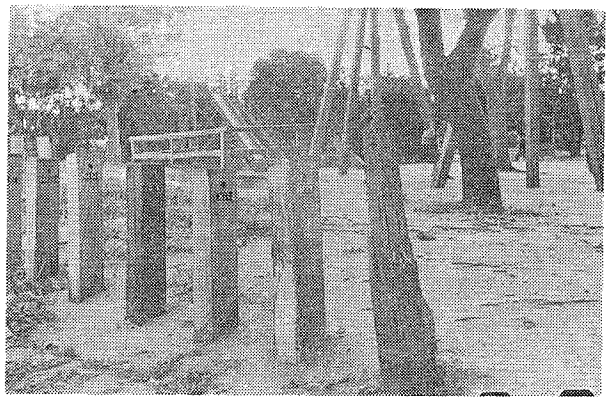


写真3 大濠公園の試験杭

おかないものがあった。一見群雄割拠の業界ではあったが，氏を中心にやはり一脈の秩序が保たれていたようである。書をよくされ，求めに応じて扇子なんかによく筆をとっておられる姿を拝見したものである。

協議会の発足と共に，以上の方々の協力指導の下に，学校，映画館等の蟻害調査，大濠公園における杭によりフィールド試験，九大構内での家屋試験等を行なった。小生の浅学非才のゆえに期待通りの結果はえられなかったが，今からすれば，これも楽しい思い出となっている。先般も鹿児島本線で九大前を通過の際，松の木越しに実験家屋が一二棟残っているのを見て感無量であった。

その後西日本蟻害対策協議会が解散し，全国的組織となり，本部を東京に移してからのことは，まだ日も浅く皆さんもよく承知のことと思う。

事務所は，相も変らず小生のいた建設省の建築指導課に置かれ，およばずながら課員の協力によって事務が遂行されたわけである。何分多忙な職務の片手で，十分なお手伝ができたとは思っていない。幸い天明稔課長事務補佐（現住宅金融公庫）の熱心さ，真面目さと一の瀬周太郎技術専門官（現兵庫県建築課長）の一言そのものズバリの好助言に支えられて，役人の常套語にある通り，

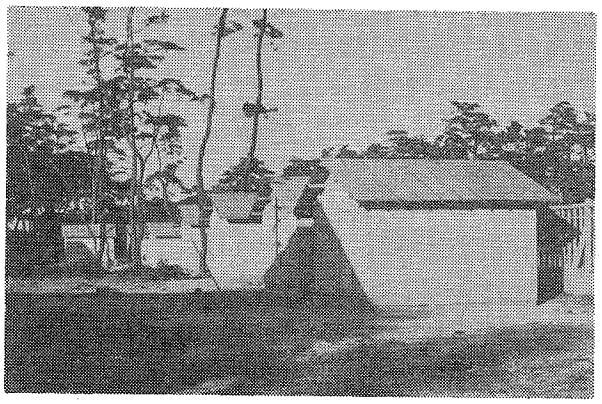


写真4 九州大学構内の実験家屋

何とか大過なく過してきたというところである。国電高田の馬場近くの何とかいう私設委員会会場も今は思い出である。

—啓 蒙 作 戦—

かつて西日本蟻害対策協議会が発足して間もないころと記憶するが，中央官庁にピー・アールにでかけたことがある。関係の各課を歴訪すると，相手方は以外にしろありのことを知っていて，ああ，巣を見たよとかの返事がさかんに返ってくる。不思議に思ってよく尋ねてみると真相は次の通りであった。

当時下松市、(山口県）の建築課長をしておられた大野一郎さんが，イエシロアリの巣を硝子貼りの箱に入れ，背中にかついで中央筋を万遍なく啓蒙に飛び廻られたらしいのである。目的はある小学校舎のしろあり被害の災害認定にあったらしい。普通地震や台風の災害復旧には国から補助金がでる仕組になっているのである。しかしありによる被害は，現在でもそうであるが腐朽と同様の取扱いをうけ，自然損耗というのが少なくとも当時の常識であり，この種の災害復旧の対象には考えられていなかった。氏はこの常識の打破にいどまれたわけである。

結果は確聞しなかったが，話によると１千万円か２千万円かの起債（国からの融資）の獲得に成功されたとか，先づは目出たし目出たしであった。

イエシロアリの巣といえば，防除業者は別として，一般には馴染の少ないものである。あのグロテスクな巣の現物を前にして，中央官庁のお役人もさぞかし目を白黒させたに相違ない。その異様な光景が想像されてたのしい。いまに語りぐさとなっている。

ピー・アールと熱意が成功した例であるが，私は常にこの創意と熱意を教訓として頂いている。

大野さんといえば，先日お目にかかったとき，次のようなことをいっておられた。

何でも，今度息子さんの家を新築されたそうである

が，その床下に巣をいけこんで飼育しているとか。蟻害の状態を詳さに観察するためだそうである。この人でなくてはできないことである。

—悉 皆 調 査—

日南市といっても，あるいはご存知でない方も多いと思う。宮崎県の南部にあり，かつては遠洋漁業の基地港として有名であった油津とひなびた城下町の沃肥とが合併し，戦後に誕生した市である。

三方を山にかこまれ，僅かに南が波静かな細長い入江によって太平洋の荒海につながっている。日当りのよい南国の小都市，しろありならずとも住みつきたくなるような街である。

宮崎県在職当時（昭22—23)，課の係長をやっておられた日高さんが，その後この日南市の建築課長に栄転されたが，早速に手がけられたものが，同市家屋のしろあり被害の悉皆調査である。昭和27～28年の頃であると記憶する。

結果については，口頭でしかお話しを聞くことができなかったが，私の記憶が正しいとすれば約60%の家屋が何等かのかたちで蟻害をうけているとのことであった。たまたま，門司鉄道局から管内の全施設の蟻害の悉皆調査の結果が発表されていたが，それらの数字と対比して大変面白い結果だと思ったことである。しろありの被害の量的な調査結果が余りなく，その全ぼうの把握に欠けている中にあって極めて貴重な調査ではなかったかと思われる。

いずれ印刷物による発表があるものと心待ちをしておったのであるが，いつしか私自身も失念してしまった。日高さんとはここしばらく消息をうかがう機会がないが，もしご健在ならその当時の報告書を入手したいものと思っている。

—よいことだ—

昭和28年に福岡県から長崎県に転勤したのであるが，着任そうそう建築界の大元老の内田洋三先生が長崎に来遊されることがあった。地理には全然不案内であったが，案内役を買って出る破目になった。

そこで，先づシナ寺で有名な文化財の崇福寺にお供した。仏殿の前に立たれると，先生は開口一番「君は近頃しろありをやっているそうだな。よいことだ。一生懸命やりなさい。」といわれた。どこでどういうふうに先生の耳にはいったのか分らず，その意味をそん度しかね当惑してしまった。別に研究しているわけでなし，ただ協議会の設立を手伝ったに過ぎないのであるから，あるいは誤解があったのかと思われた。

さて，内陣にはいって裏側から須みだん中をのぞくとどうであろう。内部はイエシロアリの例のカルトンで完全に埋っていたのである。幸い古いものであり，カサカサに乾燥しており個体は全然見つからなかったが，これには一驚した。先生も驚かれたようであった。

私も建築屋の端くれであり，時には建築のはなやかな面に気を引かれることもある。そんな時には，先生の言葉を私なりに解釈し，思い浮べながら勇気をふるい立たせることにしている。

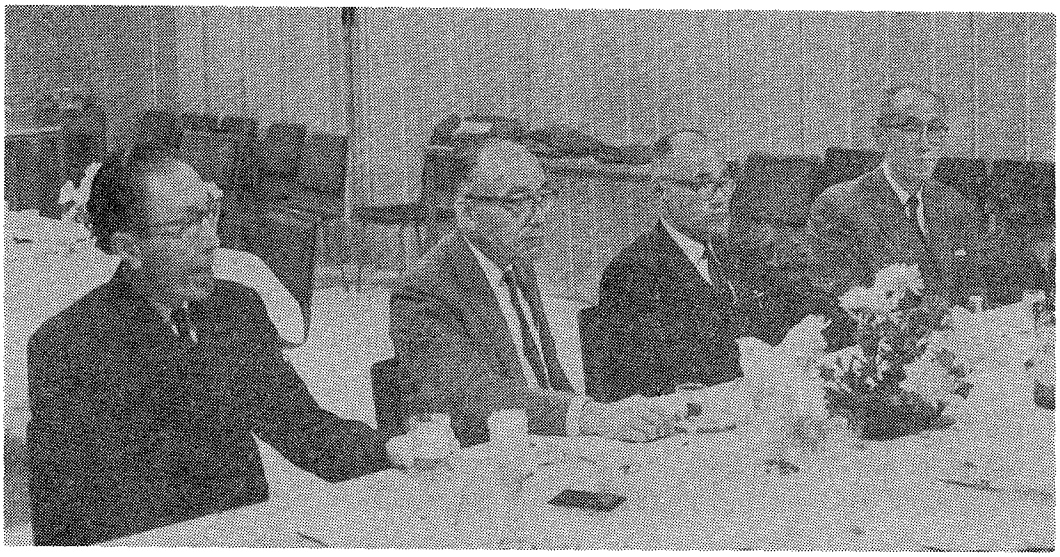
（本会副会長）

＜座　談　会＞

社団法人設立を記念して

出席者

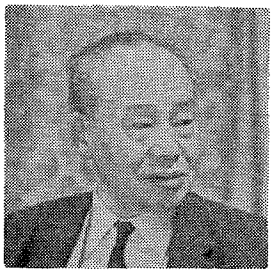
会長	大村己代治	機関誌編集部（司会）	森　八郎
副会長	芝本武夫		雨宮昭二
同	前岡幹夫		神山幸弘
同	中島　茂	事務局	香坂正二
参与	森　徹		本田吉兵衛



司会　本日はお忙しいところ，ご出席下さいましてありがとうございます。とくに中島先生には学部長の要職にあってご多忙にもかかわらず，宮崎からご参加いただきましたことを厚くお礼申し上げます。

日本しろあり対策協会が，本年9月社団法人になりましたことを祝し，機関誌「しろあり」10号を記念号として発刊したいと考えまして，それに掲載させていただくために，本日の座談会を企画いたしました。

最初に会長からご挨拶をいただきたいと存じます。



大村　社団法人格をとるということにつきまして，3年前長崎での総会決議以来努力してまいりましたが，3年越しに，ようやく9月に認可になりましたことは，まことにご同慶の至りでございます。実はご承知のように，昨年のときに大臣の判までいっておりましたが，手違いで西村建設大臣の判がいただけず，越年したわけでございます。今回はとくに建設省の事務官のほうも慎重に調査してくださいまして，十分検討の上で，保利建設大臣のご判をいただいたしだいでございます。その間に，いろいろ資料も提出し，私どもの心構えもしっかりしてきたわけでありますから，それだけに今後の運営もしっかりやりたいと思います。皆さま方のご協力で間違いのないように進めていく決意でございます。その心構えにつきましても，とくに触れていただきまして，座談会を意義あらしめたいと思うわけでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

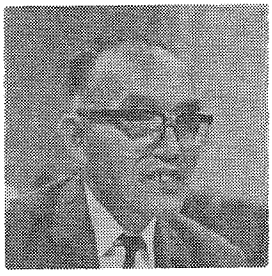
全日本しろあり対策協議会以前

司会　私が聞いておりますところでは，本協会の前身の西日本蟻害対策協議会が，昭和29年4月に発足いたし

ております。これは，いま当協会の副会長の前岡さんが，福岡県建築課におられまして，前岡さんの非常なお骨折りによりまして，発足したと承っておりますが，その当時ご参加になりましたのが，宮崎大学の中島先生，それからなくなられましたが，九州大学の江崎先生，それから当時建設省の部長をやっておりました森徹，私の兄でございます。この方々が参加されて発足されたというふうに承っておりますので，今日この方々にお集りいただきまして，その当時の思い出から今日まで発展してまいりました過程，またこれから将来の理想像と申しますか，皆さまのご抱負をお聞かせいただきたいと思います。

西日本蟻害対策協議会が，昭和34年5月に発展的に解消いたしまして，全日本しろあり対策協議会が設立されております。このときから非常に尽力をいただきましたのが，東京大学の教授をしておられました芝本先生で，ただいま当協会の副会長をやっていただいております。それから昭和40年4月に，日本しろあり対策協会と改称されております。そして，43年9月に社団法人の設立という過程をたどってまいりました。その間に，現在の会長の大村さん，常務理事の香坂さん，その他皆さんの非常なご尽力で，確固たる基礎ができたと考えております。まず，西日本蟻害対策協議会の発足から今日に至る経過につきまして，前岡さんに何か当時の思い出を聞かせていただきたいと存じます。

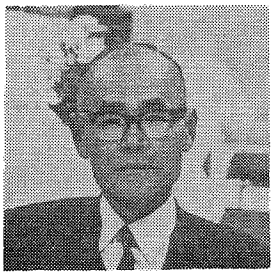
前岡　ご指名によりまして私少し懐古談をやらせていただきます。西日本蟻害対策協議会が，いちばん最初に出てまいりますけれども，その前にまだ少しお話があるわけで，それを少ししゃべらせていただきたいと思います。



実は，昭和22年に私初めて県の課長ということで，宮崎県に赴任したわけであります。課長に初めてなったというので，何か一つやってみょうということで，はりきっていたわけです。ふと部下の机の上を見ますと，試験管が2，3本並んでおって，下のほうに綿が入って，その上に白いものが入っている。いったいこれは何だということから，よくよく話を聞いてみますと，これがシロアリだというようなことで，じゃあここにいったいだれが坐っているんだということを尋ねますと，その後，関係が出てまいりますけれども，吉野という方がおられ，たまたま県の職員になっておりまして，シロアリのほうをやっているということでありました。私これだなと思いまして，当時終戦直後でございますし，建築のほうはいまの考え方からすれば，バラック程度の家しか皆さんおつくりになっていない。これは，将来必ず問題になる事項であるし，それから話を聞いてみますと，あまり総合的な研究がされていないというふうにお聞きしましたので，これを一つ何とか建築行政のほうで，軌道に乗せるようにやってみたらどうかということを考えたわけです。と言っても，私全然シロアリについては知識がございません。その後，吉野さんに話を聞いて，何か勉強するものはないかと尋ねたら，いい本があるということです。それはどこにあるのかと聞いたら，それはおそらく宮崎大学の中島先生のところだろうということでした。その本というのは，明治の末期，台湾総督府の委嘱で，大島正満先生一門が研究された当時の陸軍省に対するレポートで，前後6冊の，かなりまとまったものでございました。まだそのときには，中島先生には面識がなかったのですが，一つ頼んで借りてくれんかということで，お借りしました。それを通読して，当時の研究の状態をある程度勉強さしてもらいました。このくらい知っておれば，いろんな方に会って，話をするにもまあ十分じゃないかということで，ひと安心ということになったわけです。そうしますと，これもたまたまでございますが，宮崎には1年ちょっとしかいなくて，その後福岡県のほうにまいったわけです。それで，宮崎県での知識をちょっと披瀝してみたら，非常に関心がありました。福岡県は当時シロアリ防除の業界としては中心的な県であるということをおくればせながら発見もしたわけです。これはいけるなと思いました。じゃあどうしたらいいかということで，地元からは中島先生をお願いする。それから，東京のほうからもということで，頭の中にぽっとひらめいたのが，学生時代に，研究室でヒラタキクイムシの研究をされておった森徹先生でした。同じ昆虫のことだから，森先生に相談役になってもらえればということで，この両先生にご指導をいただいて，組織づくりという方向に展開していったわけでございます。最初は，かなり苦労がございまして，もちろん両先生のご苦労ともいえるわけですが，あとでお話があるかと思いますけれども，シロアリ関係の業者を県庁に呼んでも，お互いに一面識もなく，名刺を初めて交換するわけです。これはやっぱりやるべきであったということを痛感しました。その後，地元九大の江崎先生とか，門司鉄道局の方と

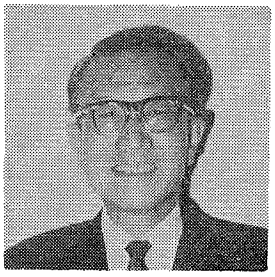
か，関係方面にも連絡したら，ぜひ一つやってくれというようなことでした。こういう組織づくりというのは比較的得意と言っちゃ変でございますが，なれておりますものですから，西日本蟻害対策協議会をつくったわけです。当時の風潮としては，会はなんでも東京でつくらないと成功しないという時代ではございましたが，蟻害の範囲がとくに関西，九州，四国を含めたいわゆる西日本ということでございますので，陣容も一応九州のほうで整えまして，西日本蟻害対策協議会ということで，発足したわけでございます。その後，諸先生方には，対策協議会のご面倒をみていただいたので，その後の経過はご存じであると思います。

司会　西日本蟻害対策協議会発足当時のご苦心を拝聴いたしまして，前岡さんがいらっしゃらなかったら，西日本蟻害対策協議会も発足しなければ，本日の日本しろあり対策協会も実現できなかったのじゃないかというような感じを受けましたが，この西日本蟻害対策協議会発足当時から，参加しておられます中島先生に一つお話をいただきたいと思います。



中島　私シロアリというものに縁をもたせてもらいました動機を，この際申し上げておきたいと思います。実は，昭和17年に海軍省から依頼を受けまして，南方諸地区の資源調査にまいったのでございます。その行った場所というのが，ただいまのベトナムからタイ・ビルマ・マライ・ジャワ・スマトラでありますが，その際，私はその地域におけるシロアリ被害が非常に激甚であるのを見ました。たまたま私が昆虫の巣をつくる習性について深い関心をもち，シロアリに興味をもちはじめたやさきでありましたので，シロアリの研究をこの際いっそう進めていくべきであるという信念をもったのがそもそもの初めです。かようなことで，シロアリに手を染めているところで，前にお話がありましたように吉野君を通じて前岡さんを知りました。前岡さんはその後，福岡にご栄転後も，シロアリについての建築行政では日本の第一人者として，重んぜられていたということは，いま森先生のおっしゃるとおりで，今日日本しろあり対策協会発展の基礎を築かれたという重要な役柄を果たされておられました。ここで，私は，西日本蟻害対策協議会に，呼び出されまして，講演をさせてもらいましたことを思い出すのでありますが，第１回目におきましては，森先生のほうは建築学的に，私はシロアリの生態の面からのお話をしたと記憶しております。第２回の西日本蟻害対策協議会の総会では，江崎悌三先生に「世界のシロアリ」という題で先生の該博なシロアリの知識をお話し願ったのであります。日本の昆虫分類の大家でありました先生が，シロアリについては，これが最初の講演で，また最後の講演になったのであります。

司会　ありがとうございました。戦前は，大島正満先生のシロアリの研究，台湾を中心としたりっぱな業績が残っていますが，それから中断してしまいまして，一つのブランクができたわけですが，戦後スタートされました研究としては，中島先生がその最初ではないかと思っております。それ以来シロアリ研究というのが次第に科学的になってきたと言えるんじゃないかと考えます。つぎに西日本蟻害対策協議会発足当時のもう一人の先達の森徹先生に一つお話をいただきたいと思います。



森（徹）　いまちょうど，前岡副会長から，昭和22年ごろの話を初めて承りまして，その先見に驚きました。私は建築屋でありながら，昔ヒラタキクイムシを東大の建築科で飼っていたことがありました。建築屋の私がどうして虫に関係したかということをちょっと申し上げたいと思います。それが，やはりシロアリ対策とつながっていると思うのでございます。

昭和の６・７年ごろだと思いますが，その当時，原田積善会というのがございまして，財団の人たちが社会事業をやっておられました。その一つに，国華社というのがございまして，滝精一先生が主催しておられました。その当時大学の中に，山上御殿というのがございまして文学の滝先生，それから亡くなられた植物の柴田桂太先生，その弟さんの無機化学の雄次先生，有機化学の松原先生という具合に，植物，文学，化学などの大先生方，それから建築の内田祥三先生，後に東大総長になられた先生ですが，昼の食事をしておられましたときに，国宝の仏像が腐食して傷められるという話が出ました。その当時は腐りも，虫食いも区別のない話でした。内田先生に，だれか大学院でそういうものをやる人はいないかということになりました。その当時，私は内田先生のご指導で，昭和５年から大学院の研究室で「木材と木構造」という題目で研究をさしていただいていたのです。その当時は，大先生がおっしゃると，はあと言って何でも大学院の者はお引き受けするということになっていました。

「妙なものだけれども，森君引き受けてくれ」といわれて，大先生方に紹介されたのです。とにかく，奈良へ行

って仏像をいろいろ調べてみたのです。いまいう「腐り」と「虫食い」と両方ありました。「虫食い」のほうはどの虫が食うかと調べましたら，だいたい数種ございました。そのうちシバンムシというのが大きな害をすることが判りました。そのシバンムシを飼うのに，なかなか骨が折れて，うまく行かなかったわけです。かれこれやっているうちに，ヒラタキクイムシなら少しは飼えるのではないかということになり，ヒラタキクイムシを飼ってみたわけです。また遠くは新潟のほうに能生谷村というのがございまして，私が名前をつけましたノウタニシバンムシというのが無数に生息していましたので，比較試験のため，今でもテストピースをたくさんおいてあるんです。そんなことで，いまだに私は建築屋で虫屋だと思われていて相談にくるんです。実はその後，昭和14年に満州国に赴任するようになり，内田先生に相談しましたら「森君いままでの研究をどうするんだ」といわれ,「いや私の弟が農学部のほうで昆虫を専門にやっていますから，私がやるよりは弟のほうが適任でございますので」ということで，内田先生に弟を紹介したわけです。それがいま森八郎がこの会にお世話になっているいきさつなんでございます。とにかく，私は満州に行くものですから，私のあとの虫関係のものを全部弟にバトンを引き継いだわけでございます。それから，終戦後引き揚げてまいりまして，たまたま昭和25年でございますか，建築基準法の改正というのがございまして，その時会議で前岡さんと隣合わせになり，前岡さんは前から知っていたものですから，昼食後雑談のうちに，前岡さんからシロアリの話が出ました。前岡さんは九州で22年ごろから中島先生その他の方と関係しておられ，シロアリ研究の大先輩であるということを私は知らんものですから，シロアリの話も引き受けてしまったわけです。前岡さんがそんなにえらく勉強しておられるのだったら，私は九州に行かなんだと思うんですよ。いま初めてそういうことを聞いたんです。

それで，なにかやらなければならんものですから，宮脇建築部長という大学当時の同窓もおられるし，とにかく九州へ行ってみようということになりました。ところが，福岡県庁へ行って驚きました。前岡さんが言われたように，とにかくシロアリ業者を一ぺん呼ぶからということになって招集されたわけですが，そこはなかなか前岡さんも役者だったと思うんです。私が建設省でしょう。うまいこと矢面に立たされて，考え方によっては，踊っていたわけですね。踊って悪かったというわけじゃなくて，いいことをしたとは思っているんですが……。県庁の建築部長のところでシロアリ業者の方は皆さん初対面の挨拶をしておられるでしょう。シロアリ業者の人たちはお互いに顔も知らんのかと驚きました。名前だけは皆さん知っておられるのですが。

西日本蟻害対策協議会が発足した当時建設省で建築技術研究補助金が少々出たんです。それで大濠公園で県庁の費用と一緒にして，シロアリの巣の上に試験家屋を建て,色々な薬液処理をした杭を打ちました。公園の濠の周りにも同様に薬液を処理した杭を打ちました。また九州大学の中にも色々な構法をした小屋を建てたのです。前岡さんがさっき話された吉野さんが非常に熱心だったから，いろいろ調査をやってもらいました。シロアリの巣の上だから食い荒すだろうと予定していたわけですけれども，逆に巣がだんだんしぼんでいくんですね。考えてみると，あれは私が全く素人だったのです。巣の上に小屋を建てて,芝本先生が推奨しておられた薬剤をはじめ，いろいろの薬剤を供試しました。そのためシロアリの巣がだんだんしぼんでしまうのは当然だったので，結局実験にはならなかったんです。大濠公園の杭のほうは，野天だったから，色々と結果が出たんです。ずいぶん杭を試験したことを覚えています。樹種別の比較もいろいろやりました。当時の新薬ＰＣＰに浸漬してやったものの効果ですが，水溶性のものを用いると，一部だけが浸透するので，浸透しない部分がやられてしまったりいたしました。それから，ときどき中島先生と一緒に講演をやらされました。いまさら私は素人だと言っても引っ込みがつかんようになって，結局中島先生がやられ，またそのほかの専門の方がやられて，それから私がやるということになりました。私が講演すると，いつもシロアリ業者が私をつかまえて質問し，講演者と聴衆のやりあいなんです。いまでも覚えておりますが，大西という熱心な方がいて，一服盛られやせんかと思うくらいにこわかったですよ。

中島　ええ，砒素の仲間ばかりでしたからね。（笑）

森（徹）　まあそういう笑い話もありました。九州大学の建物では，木材に孔をあけ，砒素剤を入れて栓をするようなことをやっていました。特殊薬だということで，何とか法律にひっかからないようにやっていたものです。前岡さんのような敏腕な方，宮脇さんのような腹の太い方，中島先生のような博学な方がおられなんだら，西日本蟻害対策協議会も発足しなかったろうと思いますよ。それから，前岡さんが順次東の方に勤転してこられたのです。兵庫県の建築課長になられて，シロアリ対策がだんだん東の方へ移って行ったわけです。

ラジオかテレビ放送に出ろとかいうことで，前岡さん

と中島さんと，私と３人で神戸でもしゃべらせられたですね。それから，そのあとでしょうか。山口県の下松での対策協議会の時です。あのおりには，私の講演寸前からシロアリ業者の方が大勢押しかけて来られたですよ。何か言うて，最後に大声をあげて，みんなザーと引き下がって行かれたですね。九州グループの方でしょうな。森部長の答弁を求むと全く議会と同じようなことだったです。私が防波堤になっておったということはよかったと思うんですよ。あれで私がひるんでおったら，前岡さんは実際に，直接行政にたずさわっておられたからやりにくかったのではないかと思います。私なんか建設省でしょう。押しても押してものれんに腕押しをやっているようなものですから。それでも対策協議会も消えないで，前岡さんとともに東へ東へと移って来ました。それから前岡さんたちが熱心にやっておられて，全日本しろあり対策協議会が34年に四谷で創立大会が開かれ，大発展の基礎が確立されたわけですね。

中島　四谷でしたか？

森（徹）　四谷の主婦会館の４階でした。段取りがいいもので，そのおりにも私はしゃべらされました。とにかく何かかっこうをつけるおりには，引っぱり出されて少しはお役に立ったようです。

シロアリ対策の技術については，私がこれをやらせていただいたお蔭で，法隆寺の五重の塔の復興，山口県の錦帯橋の復興という大きな仕事に私の技術が若干お役にたったとすれば，芝本先生のＰＣＰもさることながら，しろあり対策協議会に関係していたから，その応用として技術が役にたったということで，非常に協議会のことを感謝しているわけです。

全日本しろあり対策協議会時代の思い出
（昭和34年～昭和43年）

司会　それで昭和34年５月15日でございますか，いまお話の四谷の主婦会館で，全日本しろあり対策協議会が発足いたしました。当初は，建設省住宅局の局長さんの稗田さんが会長であられたわけですが，実際は副会長をやっておられました芝本先生が何から何まで一切面倒をみておられまして，今日あるのは芝本先生のご尽力のたまものといっても過言ではないと思います。そこで芝本先生から，その時分からの経過，その他一言お話していただきたいと思います。

芝本　あれは31年でしたか，農林省の農林水産業の応用試験研究費で，31年，32年，33年とシロアリ被害調査方式について研究させていただくことになりましたが，そのねらいとするところは，次のとおりであります。

シロアリの被害は，ご承知のとおり，木材全般に及んでいる。ところが，その木材は，各方面に使われていて，ただ住宅ばかりでなしに，木柱・鉄道の枕木・農産物・山林の立木まで被害をうけるのに，被害の調査方式は各地で無関係にばらばらにやっておられる。なんとか統一できれば幸いだということで，中島先生・森八郎先生・神山先生・森本博先生・雨宮先生・日塔先生・河村先生などがメンバーで，非常にご熱心に研究していただきまして，どうやらこうやら調査方式が，一応あの時点においてはまとまったかと思います。しかし，その試験研究は，３か年間の予定でございましたので，ちょうど昭和34年３月に終わったわけです。したがって，今度は，その方々がせっかくやられて，そこに研究者の強力なグループができたのに，研究が終わってしまいますと，それを解散しなければならないところでした。せっかくこれだけのご協力を得られるようになったのだから，解散にもっていくのはもったいないということもありまして，また，その当時，あれは前岡先生のご発言かな，西日本蟻害対策協議会はあるけれども，もうだんだんと蟻害も東に向かって広がってきておるんだから，この際もっとも全国的な視野で発展さしていくべきではなかろうかというご意見もありました。

前岡　そのときのことをちょっと付け加えますと，私も32年に建設省にきたわけですが。これは私自身シロアリの被害からいよいよはずされるなと思って東京に来たら，さっそく林業試験場に呼び出され，引き続いてやれというきついお達しを受けまして，なんときつい先生かなと思ったんです。

芝本　前岡先生にも研究者のメンバーに入ってもらったんですか。

中島　入ってもらうことはできなかったけれども，会合には出ておられました。

芝本　まあそういうことで，できれば東京にどうしても中心を設けたほうが今後のためにいいんじゃないかと，前岡先生からのサゼッションもございました。せっかく西日本蟻害対策協議会でご活動なさっているのに，また一つ別に団体を東京に設けることもどうかと考えておりましたところが，幸いに西日本蟻害対策協議会のほうでも，この際これを大きくもっていくのには，やはり中心を東京に移したらいいのじゃないかということで，皆さんのそうしたご意見が一致して，西日本蟻害対策協議会のほうは，発展的に解消するから，肩がわりにぜひ

東京に中心をおいてくれということになりました。東京におくとすれば，地域を限らず，日本全体にわたっていくんだということで，前岡先生のご命名だったと思うんですが，全日本としたらよかろうということで，全日本しろあり対策協議会が発足することになったわけです。

協会の業務と将来に対する展望

司会　それでは，ただいまこの協会でやっている大きな事業としては，防除薬剤の認定，防除施工士資格検定試験，その他機関誌の発行，これは昭和39年７月１日に創刊号が出ておりまして，今回の記念号が第10号になるわけです。そのほか，しろあり防除ダイジェスト，しろあり用語集，あるいはしろあり防除処理仕様書などいろいろな出版物を出して，シロアリの防除知識の普及，またシロアリ関係功労者の表彰など，協会としてかなり広範な事業をやっているのが現在の段階でございます。これらの事業に実際に事務を担当していただいているのが，香坂理事と本田さんであり，機関誌の発行は雨宮さんと神山さんと私どもで引き受けておりますので，ただいま申しましたような事業の内容，あるいはこれから将来どういうふうに発展さしていくべきかという点などにつきまして，ご発言をいただきたいと思います。実際に事務を担当しておられます香坂さんいかがでございますか。

香坂　私不思議なご縁でシロアリの仕事をさせていただき，やっている間に興味が湧き，協会発展のために努力したいと念願しております。ただ不明のため会員皆様の期待に十分応えていないことを深くお詫びいたします。このたび協会が多年要望してきた社団法人の許可をいただいた機会に，次のようなことをやっていきたいと考えています。まず団体が活動するためには経済的基盤を充実しなければなりません。そのためには会員，とくにシロアリに関係する地方公共団体，その他の法人会員を獲得する必要があります。次にシロアリ広報活動の強化であります。最近マスコミがなりか大きく取り上げてくれるようになりましたが，従来はどちらかというと，他力本願で，協会の自主的広報活動力がなかったようです。今後は自分で各方面に広報することが肝要であります。シロアリの生態，加害活動の状況および防除方法等の映画またはスライドを，各方面に配布したり，映写供覧することが必要であります。またポスターおよびパンフレットの作製配布，防除旬間の行事内容の充実，期間の延長などを実施していきたいと考えております。機関誌「しろあり」は，この方面の専門誌として社会的に高く評価されておりますが，今後いっそうの内容の充実と発行回数の増加をはかることが必要と思います。シロアリ防除士の技術的向上のための技術講習会の開催も計画的に行なう必要があります。シロアリの被害の調査は協会の当然の責務であり，またシロアリ防除処理の法制化実施の促進も協会の重要な仕事であります。協会会員の中心的立場をしめている防除士会員の業者的利益を代表する防除士協会は当協会の直接的な機関ではありませんが，協会としてはこの団体の健全な発展を期待しております。できれば全国的機関にまで発展し，防除士の共通的な問題を解決していただきたいと考えております。防除処理費の適正化，保証期間を含めての保障制度の確立，大手・中小の仕事の配分等々，検討していただきたいことがたくさんあります。大口の仕事にダンピングが行なわれ，せっかくの適正処理費がくずされ，他方施主側には処理費の適正に不信感を与え，業界全体に悪い影響を及ぼしている事例を聞いております。振り返って当協会の今日の順調な発展を見るにつけ，私の前任者の天明稔氏が，建設省建築指導課長補佐として，公務繁忙の折柄，協会業務運営に努力していただき，今日の基礎造りに尽力してくださったことを深く感謝する次第です。以上思いついたことを少し述べましたが，理事各位のご指導をいただいて，その責務を果たしたいと念願しております。

司会　当協会の事業の一つに，シロアリ防除週間というのがございます。これは中島先生がご提案になって始まったわけですが，世間一般の人たちと直接つながりがあるということで，防除士の方々も非常に関心があります。この防除週間を，中島先生どのように発展さしていったらよろしいとお考えですか。

中島　ささやかな提案を理事会で取り上げていただきまして，総会でお認めをいただいたわけでありますが，シロアリは皆さんご存じのように，目に見えないところで，害をたくましゅうしておるのですから，こういうことについては，機会あるごとにＰＲをしなければなりませんが，とくに羽蟻が出る５・６月頃，多くの人たちが初めて，こんなアリが家から舞い出たという時期，多くの人たちが関心をもって，いろいろ質問を起こす際ですから，このときを最も効果的に利用し，シロアリについての正しい知識をもってもらうという趣旨が，この週間を考えた動機でございます。将来ということでありますが，シロアリについての人々の関心，ならびに知識も

年とともに成長していくものと思いますので，また成長しなくてはならないものであると考えておりますので，今後の週間のもち方については，いっそう新しい構想でいくべきだと思うのでございます。その一つとしては，来年度になりますが，かねて理事会でもお話をいただきましたシロアリのスライドをつくりまして，このスライドを広く教育機関にも販売し，科学的な，学問的な指導をすることが週間の意味を最も深めていく具体的な方法になるのではないかと思いますので，私は学校から，青年団あるいは主婦団体のようなグループにまでそのスライドを配って，十分に正しい知識をもたせることが必要であると思います。

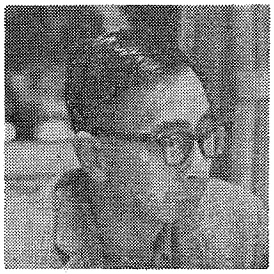
司会　いかがでございましょうか。いまの問題につきまして，ご意見がありましたら，伺いたいと思いますが。

中島　ちょっといま一言いわせていただきますと，以前本会でつくりましたシロアリの映画というのは，1巻が5万円といいましたかね。ああいう高いものじゃどこの団体でも買うというわけにはいかんのですよ。スライドが1組できれば，1万円内外というくらいのシリーズにします。それならば，私はどこの小学校でも，中学校でも，1組買って勉強すると思うんです。だから，将来はもう少し安く，カラーのシロアリ映画も考えていただきたいと思います。その過渡期といたしまして，スライドでやっていくというのが，皆さんのお考えであるというふうに私は受け取っております。

司会　シロアリ防除週間の問題は，ただいま中島先生のご提案で，そういうふうな線に沿って大いに進めてみたらと考えております。防除薬剤の認定のほうは，日本の大メーカーから，毎年次々と申請がありまして，いま現在幾つありますかな。本田さん，40くらいですか。

本田　65になっていると思います。

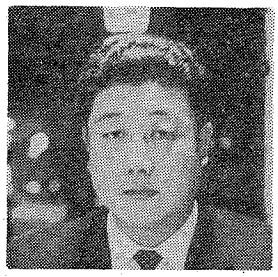
司会　65というと，非常な勢で伸びていると思います。防除施工士の資格検定試験のほうは，現在有資格者が500人近くで，毎年100人以上が受験していますね。これまた非常に伸びています。協会の機関誌も1年に2回というのでは，ちょっと少ないと思いますが，機関誌の編集担当をしていただいております神山さん，雨宮さんご意見いかがですか。



雨宮　日本ではシロアリについて専門の機関誌というものは，一つしかないということから考えますと，1年にできるだけ多く出したいと，われわれ編集員としては考えています。防除士だけでも500人，実際にたずさわっている人は，それ以上いるんですから，当然そこにはいろいろと問題が出てきているはずなんで，機関誌を出していく以上は，そういう人たちの現場のいろいろな問題を，できるだけ機関誌の中に織り込んでいくことが，まず一番シロアリ防除をやるという意味で必要なことですが，実際にはなかなか防除士の方たちは，機関誌に投稿してくれません。そういう状態で，機関誌の発行回数をふやすということでありますと，どうしても，ある限られた人が毎回書いていくということになります。そうすると，やはり内容的には片寄ったもの，あるいは似たようなものが出てくることになります。やたらに機関誌の回数をふやしても，内容的にあまり変化がなければせっかく数だけそろえても意味がないと思います。こういうことから考えますと，防除士の方，あるいは建築をやっている方たちの投稿を期待し，あるいは編集員以外の方たちでも，この協会に関係している方たちで，そういうことを書いてくれそうな人を見つけて投稿を頼むということにしていかないと，この機関誌の内容が変化に富んで，しかもいろいろな分野の方たちに役立つような内容に発展していかないんじゃないかと考えております。編集をやっている立場からいけば，原稿が集まれば集まるほどやりやすいということで，われわれが無理してひねり出すよりは，投稿家をより広めていき，その中からいいものをより分けていくという形にもっていきたいと考えております。そのためには，もっと広く皆さんのご協力を仰がなければなりません。

司会　神山さんご意見ございませんか。

神山　最近，学界・協会などでも，一つの仕事に対して関連する専門の異なる方たちが集まることが多くなってきております。昔ですと，専門の方々だけの集まりの学界なり，協会なりというものがあって，独自の立場から問題解決にあたってまいりました。しかし，シロアリ問題には，昆虫学者，建築家，また農林関係の方とか，いろんな多くの分野の方々がたずさわっておられますので，話題もそれだけ豊富になるはずなんで，機関誌もそれが特徴づけられなければならないと思います。執筆者の人数が少ないことが問題になりましたが，シロアリ被害は人間でいえば内科的な疾病で，予防的手段がとられずに，後手の間に合せ的な処置が多かったわけですが，シロアリ対策は本来は前向きの仕事なんですけれども，形としては，前向きの姿勢ではな



かなか取り上げてもらえないというところで，研究にたずさわっている人も少なく，ごく限られた人にしか関心がないというところに原因があるのではないかと思います。こういうことを考えますと，機関誌の読者層をどういう範囲においたらいいかということが，機関誌を編集していく一つの問題点なわけです。そこで，一応雨宮さんがいまお話になったように，シロアリに関連する雑誌がほとんど皆無だということで，これにはどうしても，この本が出された当時だけじゃなくて，後々までも本棚に置いておいて，いつでも引っぱり出して，あとで有効な記事になるという形での記事を，比較的多く集めるようにしております。それから毎回掲載する内容も，業者なり，研究者なり，薬剤メーカーさんなりに関連があるような記事，そのような方が現在の読者対象ですから，そういう方たちに有益な内容ということでやっていこうというふうに考えているわけです。ですから，研究もさることながら，諸外国のいろいろな研究の成果をもここで紹介するようにしたいのです。雑誌がその時点で捨てられていくのでなくて，いつまでも記事が生きていくような内容に取りまとめていきたいと考えています。そういうことがだんだん浸透していけば，今度は一般読者を対象にしたような記事も，この中に盛りこんでいって，この機関誌をもっと充実したものにしうると考えております。

司会　雨宮さんが，日本でただ一つの雑誌だとおっしゃったんですが，世界でもシロアリ対策の雑誌というのはないと思うのです。非常に珍しい雑誌で，ドイツの民主主義共和国の昆虫研究所の図書館でも，ぜひほしいと要望されています。日本語だから読めないと断わっても，とにかく送ってくれということで，実は4号まで私が送りました。読めないで役に立たんのも気の毒だと思って，表題とアブストラクトの簡単なやつを入れたものを送ってやったのです。しかし，つい面倒くさくなりまして，5号からあと送ってないのですが，この間また催促がきまして，引き続き送ってもらえないか。コンプリートで持っていたいのだという希望であります。アメリカでも，いま日本のイエシロアリがどんどん広がっていって，ミシシッピのほうにまでいってしまいました。ガルフポートの林業試験場でも，イエシロアリの大発生で，日本のイエシロアリの論文に非常に興味があるから，ほしいという話がきているのです。こういうためには，表題だけではやっぱり役に立たないので，必要ならばそっちでトランスレートしろといえばいいんでしょうけれども，できればアブストラクトくらいつけて送れればいいと思います。日本のシロアリ雑誌から世界のシロアリ雑誌に発展させたいという抱負をもっています。そういう現状でございますので，皆さんのご協力を得て，機関誌がますますりっぱなものになりますように，大いに投稿していただいて，表題だけではなしに，全文欧文か，欧文のアブストラクトくらいはつけていただけるという日が1日も早くくることを期待しております。

森（徹）　香坂さん，これは質問ですが。いま沖縄，台湾，南方のああいう国の人たちは非常に日本に関心が強いようですが，雑誌を送ってくれとか，何とか連絡がくるんでしょうか。

司会　協会の機関誌を知らないのが非常に多いようです。

森（徹）　やっぱり初め少し向こうの図書館みたいなところなど，よく目につくところに送りますと，案外勉強をされます。台湾までは日本語で大丈夫ですよ。それがまたそれから先に行きますから，かなり広範囲に行き渡ります。私らの研究所も日本語の報文をオーストラリアからも送てくれというわけですよ。だからオーストラリアの研究所とか，シロアリについて非常に興味をもっておられるところへ，まず少なくとも政府機関へ送れば，ずいぶん広がるような気がいたします。それから，これに関連して申し上げますと，たとえば協会でポケットブック的な，ハンディーなものをつくったら，防除士でも，あるいは一般の人でも，使いやすいと思うのです。この雑誌はだいぶん学問的なものが入っていて，かなりレベルの高いものですが，そういう簡易なものがあれば，便利だと思うのです。

司会　「しろあり防除ダイジェスト」というのを出していますが。

森（徹）　ハンディーなもの，ポケットにちょこっと入れていくようなものも便利です。協会出版物は将来伸びていくと思います。エカッフェ（ECAFE）というものがございますが，ああいうところでは，日本の技術というか，金だけでなくて，技術協力を非常に求めているんですね。東京にエカッフェの事務局がありますから，そういうところに寄贈しておくと，そこから東南アジア関係のルートがつきます。また南方からの留学生が日本におりますので，留学生の会館の閲覧室にでも送られると非常によいと思います。ご承知のように，日本から太平洋に沿って，文化・教育・政治を一つに動かそうという大きな動きがあるわけです。その出先関係の機関が，東京にもずいぶんありますから，そういうところにプッシュされると，非常に効果的じゃないかと思うのです。最後に，私先に失礼さしていただきますので，ちょとっ申し上げますが，大村会長や前岡さんが建設省にお

られたせいで，何とか社団法人になられて，たいへんおめでたいと思います。建設，農林，通産，各省にまたがった仕事というものは，日本では実に困難なことなんです。このことは実際の所管がどこの省だといわれたら，議論がありましょう。それが社団法人になられたことは，実際大村会長や前岡さんのご功績だと思いますよ。農林省でもなければ，建設省でもない。通産でもなければ，厚生省でもない。また文部省でもない。またがった仕事というのは実に日本の中ではやりにくい。したがって，これを一つ前進さして，海外に向かって発展する場合には，やはり社団法人という条件が必要なんですよ。そうでないと，商売的なものと誤解されます。協会という名のもとに，いろんな商売的なことをずいぶんやっておりますからな。大村会長はじめ，芝本副会長など驚くべき推進力をもって，薬剤認定とか防除士の試験とか，国でもなかなかやれないようなことをやられたのですね。私，初め話を聞いて，こんなことをよくやってのけられたと感心しているんです。こういうことがさらに留学生にまで派生していけば，大したことです。南の人たちが日本にずいぶん留学していますから。日本に来ている時に，シロアリ協会があるということを知れば，一緒に防除士の勉強をしていかれるのじゃないでしょうか。シロアリだけで留学ということは，なかなか困難ですけれども。

私，皆さんのような大先輩のいらっしゃる中で，隠居役みたいなことをさしていただいているのですが，必要があれば，いつでもお手伝い申し上げます。とにかく，この技術革新時代にシロアリ対策の技術革新もあって当然なのです。こういう技術が人類文化の発展に寄与するところに意義があり，われわれのやっている目的がだんだんみんなにもわかってくるでしょう。人類最終目標に向かって協力しようではないかということが，だんだんわかってきつつあるようでございます。

中島　森先生がそこまでおっしゃってくださるから申しますが，私どもの希望としましては，これだけの基盤ができてきたのですから，国としてのシロアリ総合研究所のようなものを，何んとかつくるという動きにまでいかんものでしょうか。林業試験場にいまある研究室を拡充して，将来はそれが研究所になり，さらに総合研究所になるというような段階をお考え願っていただきたい。外国からいろいろシロアリの研究にきても，あっちを回れ，こっちを回れというよりは，一つのセンターに行けばよいというような総合研究所をお考えになったらどうかと思うんですが。

森（徹）　それは芝本先生とか，雨宮先生がここにいらっしゃいますが，学術会議の農林関係の会合へ出すんですよ。とにかく，まず上程してもらう。国として取り上げる場合には，まず上程することが必要なんです。そういうことで，まず6部に出してもらうことです。

中島　6部なら越智さんが部長です。

森（徹）　一ついまいったようなことを理事会でもご検討なさってはいかがでしょうか。手っとり早く有効にやるには日本に向かって外から要望してもらうことです。東洋の技術のリーダーシップをとるといいながら，シロアリについて何かやってくれているのだろうか。その辺のことをエカッフェが取り上げたら，逆にあわてて，国として取り上げますよ。向こうからぱっとはね返へらしたらね。日本の中からやるよりも有効ですよ。日本に向かってエカッフェの決議だから，日本も協力してくれと発言してもらえばよい。われわれもシロアリにはずいぶん悩まされているというようなことになれば，脚光を浴びる大きな仕事になってしまいますよ。

司会　だいぶ時間が過ぎました。いろいろまだお話しいただきたいのでございますが，この辺で終わりにしたいと思います。最後に会長に一つご挨拶をお願いいたします。

大村　どうも長時間有益なお話を承りましてありがとうございました。私も会長を6年さしていただいておりますので，もっと何か実のある仕事をしなければいかんと思いながら，つい片手間みたいなことで，まことに申しわけないと思います。ただいまの森先生のご意見にもありましたように，道はいくらもありそうでございますから，今後努力していきたいと存じます。どうか皆さまのご協力をお願いいたしまして私の挨拶の言葉とします。本日はどうもありがとうございました。

司会　どうもありがとうございました。社団法人設立を記念しましたこの座談会をこれで終わりにいたします。

協　会　の　歩　み

香　坂　正　二

昭和34年5月当協会が全国組織として発足してから10年を経過したが，この間の協会の業務実績を振りかえり，社団法人として新発足の指針といたしたい。

1. 防除処理の対策

(1) 家伝方式による防除処理から科学的防除処理の最低基準として「しろあり防除処理仕様書」を制定し処理基準を明確にした。

(2) これと併行して業界が多年使用してきた砒素材の使用を廃し，防除薬剤の効力認定制度を確立，これが使用を勧奨した。防除薬剤の認定状況は次のとおり。

用途別＼年度別	36	37	38	39	40	41	42	43	計
予防剤	14	0	1	2	4	0	2	3	26
駆除剤	10	0	1	2	3	0	3	5	24
土壌処理剤	9	0	0	1	1	0	3	2	16
計	33	0	2	5	8	0	8	10	66

(3) 防除処理の適正を期するための技術者の技術能力の認定制を採用し認定又は試験合格者に対しては「しろあり防除施工士」（略称防除士）の呼称を与え登録した防除士認定及び試験の応募者および認定登録状況は次のとおり

区別＼年度別	40年度（試験）	41年度（試験）	42年度（試験）	43年度（試験）	計
受験者数	199	75	102	130	506
合格者数	196	64	94	101	455
登録者数	196	64	93	96	449

2. しろあり問題の広報活動

(1) 各種出版物の刊行

(イ) しろありシリーズ

第1集　しろありとその被害

第2集　しろありの生態と探知方法

第3集　しろありの予防法と施行実例

第4集　しろありの駆除法と施行実例

(ロ) しろあり用語集

(ハ) しろあり防除ダイジェスト第1版および第2版

(ニ) しろあり防除処理仕様書

(ホ) しろありの話

(ヘ) 機関誌「しろあり」第1刊～第9刊

(2) 映画「しろあり」3巻の作製

社会教育映画社の協力を得て困難視されていたしろありの生態の撮影を行ない関係方面へのプリントの頒布，各種会合に映写して，しろあり問題の啓蒙を行なった。

(3) しろあり防除週間の定期開催

毎年5月～6月のしろあり最盛期に，本支部及び支所の夫々の独自の計画による防除週間（旬間～月間）を開催，当協会の定期行事として高く評価されてきた。

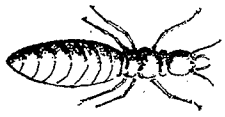
3. しろあり被害の実態調査

しろあり被害の実態把握は当協会の当然の使命であり先年防除処理業者の多大の協力を得てこれを実施した。今後これがデータの積上げを行ない完璧のものといたしたい。

4. その他毎年1回大会時を利用して講演会，研究会或は技術講習会および表彰等を行なった。

社団法人許可を機会に本部に新たに企画調査委員会を設置し協会の基本問題および新事業の企画を行ない事業の推進をはかることとした。

（事務局長）



協　会　の　う　ご　き

理事会および各種委員会開催

昭和43年6月以降の理事会および各種委員会の開催状況は次のとおりである。

第4回理事会　43年9月18日（水）　於・本部会議室

出席者　大村会長，芝本，前岡，中島各副会長，香坂常務理事，森，雨宮，河村，神山，柳沢，内田，倉林，酒井，吉野(代)各理事

議　事

1. 社団法人認可申請経過報告について
2. しろあり防除薬剤認定申請について
3. しろあり防除相談の実績報告について
4. 昭和44年度しろあり全国大会開催地について
5. しろあり供養塔並に功労者慰霊碑建設資金の寄付金について
6. その他

第5回理事会　43年10月18日（金）　於・本部会議室

出席者　大村会長，前岡副会長，香坂常務理事，森，雨宮，森本，遠藤，河村，神山，柳沢，酒井，吉田，前田，倉林各理事

議　事

1. 委員会運営規則について
2. しろあり防除薬剤認定報告について
3. しろあり防除薬剤認定申請について
4. その他

第6回理事会　43年12月26日（木）

於・港区芝西久保明舟町15　虎の門電気ビル立山

出席者　大村会長，芝本，前岡各副会長，香坂常務理事，森本，河村，神山，柳沢，内田，倉林，前田，酒井各理事

議　事

1. 昭和43年度事業計画実施報告について
2. 昭和43年度収入支出決算見込額について
3. 昭和44年度事業計画案について
4. 昭和44年度収入支出予算案について
5. 第12回昭和44年度しろあり対策全国大会の開催について
6. 表彰の実施について
7. しろあり防除薬剤認定報告について
8. しろあり防除薬剤認定申請について
9. その他

機関誌しろあり編集委員会　43年6月28日（金）

於・本部会議室

出席者　森委員長，芝本，雨宮，森本，河村，神山，香坂各委員

議　事

1. 機関誌「しろあり」第9号編集について
2. しろありＰＲ映画作製について
3. その他

機関誌しろあり編集委員会　43年10月5日（土）

於・本部会議室

出席者　森委員長，芝本，前岡，森本，河村，神山，大村，香坂各委員

議　事

1. 社団法人許可記念特集号刊行についての打合せ
2. その他

機関誌しろあり編集委員会　43年11月13日（水）

於・虎の門電気ビル立山

出席者　森委員長，大村，芝本，前岡，森徹，雨宮，神山，香坂各委員

議　事

1. 協会の懐古談
2. しろありの現況について
3. 協会の将来の活動について
4. その他

薬剤認定委員会　43年6月28日（金）　於・本部会議室

出席者　芝本委員長，森，雨宮，森本，河村，神山各委員

議　事

1. しろあり防除薬剤の認定について
2. その他

薬剤認定委員会　43年10月5日（土）　於・本部会議室

出席者　芝本委員長，森，森本，河村，神山各委員

議　事

1. しろあり防除薬剤の認定について
2. その他

薬剤認定委員会　43年12月26日（金）　於・本部会議室

出席者　芝本委員長，森本，河村，神山各委員

議　事

1. しろあり防除薬剤の認定について
2. その他

しろあり防除施工士事業所一覧

43年11月30日現在受付

都府県名	営業所名（個人営業所含む）	営業所所在地（電話番号）	所属防除士名
東京	アペックス産業㈱ 本社	港区芝浜松町2—4 (434)5576	元木三喜男 森本　帝吉
	本社営業部	(434)6474	元木　広 元木　一雄 清水　敏男 石川　省三 塩屋　知次
	城西営業所	新宿区柏木町 1—181 (363)1994	猪田　昭三
	イカリ消毒㈱	江東区深川三好町 1—7 (642)2444	黒沢　真次 永沼　清久 宮沢　公広
	ウッドキーパー㈱	渋谷区渋谷2—5—9 (400)4930	加藤　誠一 肱黒　貞夫
	エスロン害虫消毒 本社	中央区日本橋蛎殻町3—4 (666)7530	岡田全之助
	大町白蟻研究所	杉並区高円寺南 2—19—1 (314)4347	大町　泰造
	㈱慶応商事	港区三田 2—15—45 (453)6098	園田　耕士 森野　武彦
	近畿白蟻㈱ 東京出張所	世田谷区桜上水2—11—22 (303)7447	太田　光孝 田中　文夫 西　寿雄 森沢昭二郎
	児玉化学工業㈱	中央区銀座6—5—8 (571)2084	尾崎　精一
	三共㈱ 本社	中央区銀座2—7—12 (562)0411	柳沢　清 藤吉　秀敏 稲津　順三 小田　晟雄 安藤　弘一 小島　国利 森　与志
	東京支店	中央区日本橋本町 3—1 (279)1511	森下　高明 磯田　博義 井上　朝吉 飯田　明男 田中　祐二 本宮　昭男 手代木亮一 関口　元 阿部　敏郎 藤田　幸夫 清水　昭英 手塚　寿保 和井田辰男 渡辺　隆治 早野　孝 二俣　孝
東京	三共サニタリ㈱	目黒区東山2—8—8 (719)7231	川野辺清一 中島伊佐男 宮川　聖
	三共消毒社・本社	品川区東大井 5—26—22 (474)2741	小川　徳松
	東京白蟻㈱	杉並区堀之内 1—12—15 (313)7056	十河　武志 佐藤　文夫
	東都防疫	豊島区堀之内町182 (981)8897	藤森　重己 藤森勝三郎 牧野　茂次
	東洋木材防腐㈱ 東京営業所	中央区銀座6(同栄別館ビル) (572)6731	山本　健弼
	中村化学工業㈱	豊島区西巣鴨2—2037 (918)0597	亀崎　初蔵 大野　儀雄 泰平　豊文
	〃 東京支店	世田谷区駒沢4—11—2	中村章次郎 石丸　力雄
	富士白蟻研究所 東京出張所	渋谷区神宮前6-12—2 (400)7008	弓中　稔
	前田白蟻研究所 東京営業所	文京区千石 3—11—6（光陽ビル） (942)0224	小林　治夫
	みくに消毒化学㈱	台東区東上野 3—36—8 (831)2507	酒井　清六 古川　善功
	㈾みくに消毒所	港区新橋2—18—7 (571)3924	大森　靖男
	みくに消毒支社	港区芝浦3—6—14 (451)3924	大森　正孝
	山宗化学㈱ 東京営業所	中央区八丁堀2—3 (552)1261	小笠原孟伯 岸上　治
	山手消毒社	豊島区南池袋 2—40—9 (983)3468	伊藤　茂和
	中村化学工業㈱ 東京支店	世田谷区駒沢 4—11—12	中村章次郎 石丸　力雄

都府県名	営業所名（個人営業所含む）	営業所所在地（電話番号）	所属防除士名
群馬	イカリ消毒㈱ 前橋営業所	前橋市三河町1—3-4上亀マートビル	黒沢　真次
茨城	東洋木材防腐㈱ 茨城工場	那珂郡那珂町上菅谷 0292(31)2078	田中　実
埼玉	東洋木材防腐㈱ 埼玉工場	入間郡日高町原宿 04297 3191	吉元　敏郎
千葉	三共㈱ 千葉出張所	千葉市新千葉2—1—12 (41)5141	大島　郁男
	イカリ消毒㈱	千葉市千葉579 (61) 3998	黒沢　真次
山梨	㈲三福商事 本社	甲府市若松町 3—17 (33)0286	福田　一彦
長野	ナルコ薬品㈱	松本市中央 1—10—14 (3)5982	岩坂　正弘
神奈川	アペックス産業㈱ 横浜支店	横浜市中区海岸通3—9 (201)2584	池田　辰夫 岩井　光男 関川　正和 宮井　行徳
	イカリ消毒㈱ 横浜営業所	横浜市中区常盤町2—15 (641)4701	宮沢　公広
	三共㈱ 横浜出張所	横浜市西区楠町27 (311)3744	青木　良之 安藤　英男
	三共消毒社 横浜支社	横浜市西区天神町1—25 045(441)5776	小川　智儀
	藤沢支社	藤沢市藤沢323—3 0466(22)8789	内田　隆治 中村　雅行
	富士白蟻研究所 横浜出張所	横浜市保土ケ谷万騎ケ原93 (391)3574	上田　隆史
静岡	今村化学工業白蟻研究所 静岡支店	静岡市鷹匠町3 水落交番前(52)6344	古川　裕文
	㈱山島白蟻	清水市大和町40	山島　荘助 中山　要 宮田　光男
	近畿白蟻㈱ 静岡出張所	静岡市古庄608—1 (52)2147	小畑　義治
	三共㈱ 静岡出張所	静岡市常盤町2—1—1 (52)2145	塚本　勝久
	前田白蟻研究所 静岡営業所	静岡市片羽町1 0542(71)7994	小林　治夫

都府県名	営業所名（個人営業所含む）	営業所所在地（電話番号）	所属防除士名
静岡	イカリ消毒㈱	熱海市田原町1—8 神保ビル(91)7710	黒沢　真次
愛知	今村化学工業白蟻研究会名古屋支店	名古屋市千種区覚王山通5 (741)2865	今村　民男
	近畿白蟻㈱ 名古屋出張所	名古屋市瑞穂区汐路町1—1 (852)2577	南条　久雄 中村　直近
	三共㈱ 名古屋支店	名古屋市中区丸ノ内3—4—36 (941)6181	赤羽根　登 町村　憲威 山本　英夫 水野　常男 鈴木　広司 原木　佑治 柴田　順史
	日本マレニット㈱ 名古屋支社	名古屋市東区相生町4—3 (941)0855	坂口　正己
	前田白蟻研究所 名古屋営業所	名古屋市千種区赤坂町7—59 052(711)0251	小林　治夫
	万城合資会社	名古屋市北区深田町2—13 (941)8368	成瀬　逸洋
石川	防疫・防蟻・防腐施工所	石川郡美川町今町61—10	岩村　忠栄
京都	富士白蟻研究所 京都出張所	京都市東山区山科御陵別所 (58)4325	上田　隆史
	前田白蟻研究所 京都営業所	京都市下京区西七条南東野町23 075(313)1519	前田　正夫
奈良	松平式白蟻殺滅予防所	奈良市南城戸南方町28	松平藤佐根
	奈良しろあり研究所	桜井市慈恩寺953 07444(2)2678	堂浦　公彦
和歌山	ETO白蟻研究所	田辺市北新町20 0739(2)1473	衛藤　善逸 衛藤　陽司
	近畿白蟻㈱	和歌山市雑賀屋町東1—2 (24)5356	上田　清 上田　健一
	富士白蟻研究所	和歌山市東長町10—35 (23)5568	上田　隆史
	前田白蟻研究所 本社	和歌山市小松原通4—1 0734(22)1389	前田　保永

都府県名	営業所名（個人営業所含む）	営業所所在地（電話番号）	所属防除士名
大阪	安土産業㈱	大阪市東区安土町2—38 (261)5535	高浦日出男
	アペックス産業㈱ 大阪営業所	大阪市北区中之島宗是町12	高森 弘任
	今村化学工業㈱ 大阪支店	大阪市北区伊勢町38 アルモビル (363)7990	岡田 博
	近畿白蟻㈱ 大阪出張所	大阪市住吉区我孫子町東4—15—2 (692)6244	高橋 清次
	三共㈱ 大阪支店	大阪市東区道修町1—20 (203)3421	枡田今朝夫 牧川 保明 川島 将男 山本憲太郎 藤井 克己 丸橋 隆輝 森本 敏夫 大和 博 植田善三郎 横井 英雄
	武田薬品工業㈱	大阪市東区道修町2—27 06(231)3431	江口 弘希
	田中白蟻研究所	貝塚市麻生中1131 0724(2)8107	田中 実
	東洋木材防腐㈱	大阪市此花区桜島町37 (461)0431	松村 重信 菊本 弘一 長谷川芳夫 藤川 俊彦
	中西白蟻研究所	大阪市何倍野区昭和町4—11—4 (621)6543	中西 務 石本 登
	中村化学工業㈱ 本社	大阪市東区内本町橋詰町23	岡山 隆志 江口 誠 安藤 俊昭 安岡 高雄 長谷川貞雄 定森 秀治 井上 繁俊 園田 旭 岡山 隆義 湯田 勝正 上野 寛人
	前田白蟻研究所 大阪営業所	大阪市浪速区元町4—283 (641)2075	前田 正夫
	池田営業所	池田市鉢塚3—1—15 0727(61)8401	前田 正夫
大阪	豊中営業所	豊中市北条町3—205-2 06(398)2481	前田 正夫
	堺営業所	堺市黒土町2369 0722(52)1934	前田 正夫
	みくに消毒化学㈱ 大阪営業所	大阪市都島区中野町1—1—56 (921)4614	稲垣 健次
	イカリ消毒㈱ 大阪営業所	大阪市西区新町北通1—16 新町三晃ビル (531)—5921	黒沢 真次
	㈲東白蟻研究所	豊中市庄内栄町1—19—2 06(392)1140	東 芳弘
	山宗化学㈱ 大阪営業所	大阪市西区江戸堀2—47 (443)3831	泰 勝之
兵庫	アイワ消毒㈱	神戸市生田区中山手通3—52 (33)0854	安本 徹郎
	アペックス産業㈱ 神戸支店	神戸市生田区栄町通1—19 (39)3611	酒徳 正秋 園田 実茂 高山 光 桝田 三郎
	㈱今村化学工業白蟻研究所神戸本社	神戸市生田区下山手通5—9山手ビル (34)4068	今村 博数 青野日出男 稲葉 順一 岩本 正 真東 潮
	前田白蟻研究所 神戸営業所	神戸市灘区王子町1—688 078(87)2403	小林 定雄
岡山	今村化学工業白蟻研究所 岡山支店	岡山市内山下丸の内会館 (22)3055	小島 千年
	九州白蟻防除工業㈱ 岡山出張所	岡山市門田屋敷2—3 (72)2971	石河鎮之助
	山根白蟻研究所	岡山市清心町2-12 0862(52)7626	山根 坦
広島	ウッドキーパー工事㈲	広島市袋町4—12 (47)3255	森脇 熙史 市川 貞夫
	㈱啓文社	広島市東観音町15—12 (32)9185	青木 荘一 瀬戸垣内 淳一
	三共㈱ 店島支店	広島市土橋町6—8 (32)5111	斉藤 悟一
	菅野製材㈱ 防虫防蟻課	広島市大洲町164 (82)1414	富樫 勇 白鷺 昌照

都府県名	営業所名（個人営業所含む）	営業所所在地（電話番号）	所属防除士名
広島			佐古　紀義 重谷　昌宏 光安　忠雄
	中国地区しろあり調査研究室	広島市吉島本町451　(45)3634	末川　春海
	東洋化成㈱	広島市愛宕町9-10　(61)4050	松下　静雄
	東和化学㈱附属防蟻研究室	広島市鉄砲町1-23　(28)0470	中川　幸一 松井　照夫 原本　和男
	広島環境衛生コンサルタント	広島市十日町2—1—20広島県薬業㈱内　(31)6468	築地　義男
	三原シロアリ相談所	広島県三原市宮沖町260—4　(2)4094	沖迫　義春
	㈲東白蟻研究所	福山市霞町4—2—7　(23)1894	東　隆敏
山口	オスモ商会	山口市道祖町11　(2)3922	波多野俊夫
	下松防蟻研究所	下松市相生町2　(4)0629	大野　一郎 藤下　幸三
	山陽資材㈱	徳山市代々木通り1—30　0834(21)4433	花田　晃美
	高砂白蟻工業㈱	下関市山の口町7—22	藤本　貞之
	長州建設㈱	長門市東深川930—1　(2)2303	本田　薫
	山口農芸化学研究所	防府市三田尻岡村町1　呼(2)763	安達　洋二
	山口農芸化学試験所	防府市中央町13—31　0835(2)7332	安達　洋二
	千葉白蟻工務店宇部営業所	宇部市寿町　(2)9629	大石　博
	清末白蟻工業所出張所	吉敷郡阿知須町字小古郷（福岡弥重方）	清末　道男
	㈱九州白蟻防除工業　宇部出張所	宇部市松山通り1　(2)5246	有富栄一郎
香川	㈱浜崎材木店	坂出市林田町2850の甲　08774(7)0511	岡田　重信 浜崎　嘉輝
	サン白蟻研究所	高松市宮脇町1-10—6　(31)2958	土居正三郎
	三共㈱高松営業所	高松市中新町51　(31)0221	鎌田　成之
香川	中村化学工業㈱高松出張所	高松市大田上町961	内田　幸男
	中山建材㈱丸亀支店	丸亀市城西町183　(2)5161	中山　毅
	真部木工白蟻研究所	高松市松島町2—9—19　(31)894	真部　歳一
愛媛	エヒメしろあり研究所	新居浜市中村1519　08972(4)6968	真鍋冨太郎
	正和商事㈱	宇和島市朝日町4	楠本　福義
	〃	松山市一番町3—3—5　(21)8161	豊嶋　弘
	高須賀しろあり駆除工作部	松山市緑町1—6—5　(21)2261	清水　悟
	中村化学工業㈱松山支店	松山市大手町2—9—18　(21)0512	櫨本　久満 福島　宏次
	㈲友清化学工業白蟻研究所松山出張所	松山市本町6—11　(31)5421	友清　重孝
高知	㈲住宅ケンコウ社	高知市北百石町1—165　(75)8313	猪俣　正夫
徳島	泉屋木材㈲	徳島市佐古一番町10—7　(22)3095	泉谷　文雄
	中央木材㈲	徳島市中央通2：8	板東　孝男 升本　荘一 米田　忠則
	自営	海部郡海部町奥浦中川法律事務所内海部153	野村　渡
	船越商店キシラモン工事部	徳島市吉野本町5	川内　博
	吉田宅建コンサルタント	徳島市北矢三町3—5—8　(54)6212	吉田　勝広
福岡	伊佐産業㈱	福岡市若菜町27　(41)6861	福田　一元
	石丸木材商事	北九州市八幡区尾倉町1　(67)4208	石丸　明治 木本　吉保
	上塚白蟻工務店	田川市東区川端町	上塚　博勇
	㈱桑野しろあり工務店　北九州支社	北九州市八幡区通町1　(67)5229	桑野　田郎 片平　武 一角　力生 高田善市郎

都府県名	営業所名（個人営業所含む）	営業所所在地（電話番号）	所属防除士名
福岡			高田　良実 森山　大助 石畑　次康
	㈱丸高商会	福岡市大手門1—3—22 092(74)7695	高月　等 田嶋　一郎
	㈱吉野白蟻研究所	福岡市天神 1—10—31（因幡ビル5F） (75)7404	吉野　利夫 松崎　和明 金子　将良 本吉　貞純
	金納理研白蟻防除工業社	瀬高局区内野町1748 瀬高2754	金納興三郎 金納　義治 金納　正充
	合資会社大和白蟻工務店	飯塚市菰田西2—3—48 (2)7655	杉田　直樹
	三共㈱福岡支店	福岡市下呉服町 1—6 (28)8121	稲田　了
	白蟻駆除予防千原工務店	鞍手郡宮田町磯光 (2)0950	千原　博
	高木白蟻工務店しろあり相談室	福岡市大手門1 (74)5844	高木　新吾
	高木しろあり工務店しろあり相談室	福岡市上日佐555 (58)3084 筑紫郡筑紫野町二日市字光正寺2407	高木　新吾
	武田薬品工業㈱福岡支店	福岡市下川端町 9—12 (29)4931	吉田　正敏
	千葉白蟻工務店	北九州市小倉区城野水町 (93)2977	千葉　幸世
	寺崎化学工業白蟻研究所	久留米市津福本町西1210 (2)7441	寺崎九州男
	日本マレニット㈱九州支社	筑後市和泉 (52)2174—6	黒鳥　四郎
	藤野白蟻研究所	福岡市大字箱崎茶屋小路3230 (65)3972	藤野　成一
	明工白蟻工業所	福岡市蓑島東本町422—3 (43)4538	村岡太之助 村岡　治之 在津　淳一 三浦　暁生
	山宗化学㈱福岡出張所	福岡市白金 2—13—2 (53)7884	大沢　昭夫
	㈲友清白蟻研究所福岡出張所	福岡市井尻栄町372 (59)1439	一　武志
長崎	大田白蟻研究所	長崎市矢ノ平町478 (22)8436	大田　秀一 大田ミサヲ 大田　和夫
長崎	柿原白蟻研究所	佐世保市須田尾町2—26 (2)9582	柿原　早苗 柿原　八士 松尾　浩享
	陣川白蟻研究所	諫早市宇都町299 (2)2816	陣川　長門
	日産白蟻駆除工業所	佐世保市藤原町36—4 (3)3639	竹之内九八郎
	日本白蟻研究所	諫早市宇都町22—1 (2)3106	馬場　徳
	㈲梯衛生設備工業所	佐世保市上町7—9 (2)6948	梯　長次郎
	㈲友清化学工業白蟻研究所九州西部支社	長崎市伊勢町22 (23)3256	河上　利紀
	㈲長崎白蟻駆除工業所	長崎市伊勢町54 (22)6032	満山　愛次
	横尾白蟻研究所	諫早市小豆崎町1057 (2)3039	横尾　貞幸 川原　武男
佐賀	㈲友清化学工業白蟻研究所唐津出張所	唐津市栄町2981	吉田鬼知郎
	福井木材㈱	唐津市船宮町2260	安田　義治
大分	大分白蟻工務店	大分市豊町2 (2)9651	和田　善寛
	㈱吉野白蟻研究所大分出張所	大分市城崎町1 09752(2)7447	村田　治義
	清末白蟻工業所	豊後高田市上来縄 (2)2940	清末　道男
	同出張所	東国東郡安岐町下原 清末利男方	清末　道男
	㈲今村化学工業白蟻研究所	大分市豊町1 (2)6707	和田　清美
	〃中津支店	中津市福沢通り	和田　清美
	九州白蟻防除工業㈱別府出張所	別府市亀川四湯 (6)2910	有富栄一郎
宮崎	押川白蟻防除所	宮崎市大字浮田3088	押川　潔
	金丸しろあり工務所	宮崎市船塚町64—4 (4)6264	金丸　正身
	館野しろあり防除施工所	児湯郡高鍋町上江2044 (2)1658	館野　知春 館野玄一郎
	中島白蟻予防工務所	延岡市春日町 2—11—6 (2)3554	中島　泉
	〃日向営業所	日向市仲町3—43 2277	中島　庸雄

都府県名	営業所名（個人営業所含む）	営業所所在地（電話番号）	所属防除士名
宮崎	西日本しろあり研究所	宮崎市広島通り1—14—7 宮崎住宅生協内 (2)5555	久保田 博
	日南しろあり工務所	日南市飫肥町前鶴日南8596	城下 好
	深町白蟻駆除予防延岡営業所	延岡市紺屋町 2—10	戸高 秀夫
	南九州産業㈱	都城市菖蒲原19—1—4 (2)4108	有賀 泰平
	同 延岡出張所	延岡市山下町3 善正寺通り(2)3585	峰崎 定義
	吉野しろあり研究所	西都市黒生野480 (2)2891	児玉 勝
熊本	天草白蟻工業所	本渡市南町2—9 (2)3969	浜田 真一
	天草白蟻工業所	天草郡栖本町栖本 12	浜田 直記
	共栄シロアリ工業	熊本市水前寺駅前(66)2470	大塚 哲哉
	同 支店	菊地郡大津町1504(391) 275	
	佐藤白蟻工業㈱	熊本市九品寺1—4(66)1024	佐藤 秀盛 佐藤洋太郎
	三共㈱熊本出張所	熊本市九品寺1—5—19 (62)9121	矢野 浩
	田代白蟻工業㈱	熊本市北千反畑町3—18 (52)2219	坂口 兼重
	豊岡白蟻工業㈲	熊本市清水町室園618—2 (66)1937	豊岡 政行
	西白蟻工業	熊本市北千反畑町2—23 (52)1575	西 八郎
	古沢化学白蟻工業㈲	熊本市神水町 395—59 (66)1726	古沢 寿 滝本 敏夫
	前園白蟻駆除予防施工所	熊本市清水町八景水谷 (62)8519	前園 曽右衛門
	松本白蟻研究所	八代市袋町3—5 八代4615	松本伊三郎
	宮崎化学工業白蟻研究所	熊本市水前寺本町73 (63)1439	宮崎 勝
	㈲熊本白蟻工業社	熊本市新市街13—9 (55)3971	藤本 猛
	㈲合志林工社	熊本市南熊本5—6—1 (66)4221	亀井 典生
	㈲友清化学工業白蟻研究所・本社	熊本市白山町3—4—2 (64)4657	友清 重美 村上 信郎 鬼塚 貞雄
	揚村白アリ研究所	枕崎市宮前町22 呼・枕崎 67	揚村 達郎

都府県名	営業所名（個人営業所含む）	営業所所在地（電話番号）	所属防除士名
鹿児島	アリ元白アリ研究所	串木野市下名須納瀬11286	有元 秋光
	有元シロアリ研究所	肝属郡東串良町池之原174 308	有元 正
	同 鹿屋支店	鹿屋市西原町10—941 (3)2404	市森 哲雄 大坪 弘司
	大脇白蟻駆除予防工業所	鹿児島市平川町1112 (6)9118	大脇 明光
	㈱川崎塗料店	鹿児島市呉服町 4—19 (2)7131	中村 磨 山口 行雄
	㈱永田シロアリ研究所	鹿児島市千日町 1—1（天文館）(2)6688	永田 茂吉 永田 光弘 山下吉三郎 永田 和宏 右田 光雄
	㈱西日本白蟻駆除予防工務所	鹿児島市山下町17—10	福永 侃二 福永 庄司 下唐湊栄三
	児玉化学工業㈱鹿児島出張所	鹿児島市堀江町 2—18 09922(2)2511	広瀬 末亀
	佐々木白あり研究所	出水市上知識1120—1 (2)0692	佐々木秀喜
	三幸化学白蟻工業所	鹿児島市郡元町2208 (5)7017	三浦 邦弘
	三州白蟻駆除予防工務所	鹿児島市柳町 6—17 (3)1727	林 幸正
	三州白蟻研究所	日置郡金峰町花瀬1994	松宮 永次
	白蟻田中理工社	出水市向江町武本8450 (2)0656	田中 実夫
	竹井白蟻駆除予防研究所	鹿屋市寿町 3422—4 (2)4021	竹井 昇
	自営	加世田市川畑11105 加世田2909	上東 春香
	西日本白蟻駆除予防工務所大島支店	名瀬市幸町19—8 162	下唐湊栄三
	日本シロアリコンサルテーション	鹿児島市鴨池町1556 (5)2866	感応寺辰二
	橋口白蟻工務店	鹿児島市郡元町664 (5)0583	橋口 武彦
	深町白蟻駆除予防㈱	鹿児島市照国町18—3 (2)1937	深町 勝郎 徳田 貞夫 泰田 賢一

都府県名	営業所名（個人営業所含む）	営業所所在地（電話番号）	所属防除士名
鹿児島			上野　純夫
	藤田白蟻駆除予防工務所	川辺郡川辺町平山2353 呼・川辺 149	藤田　広志
	松元シロアリ防除化学社	指宿郡頴娃町上別府5558　石垣5715	松元　俊雄
	南日本白あり研究所	鹿児島市新照院町59　(3)8983	未広　淳
	㈲大脇商会	鹿児島市上荒田町239　(4)2519	大脇　寛
	㈲鹿児島白蟻駆除予防工務所	鹿児島市上本町7—16　(3)6986	井戸口清吉 井戸口　博
	㈲鹿児島船舶塗装工業所	鹿児島市呉服町4—19㈱川崎塗料店内　(2)7131	川崎　保
	㈲日南物産商会	鹿児島市泉町11—19　(6)6290	山中　良秀
	田中しろあり工務店	川辺郡川辺町平山2431	田中　善蔵 田中　広美 田中　義治
	富士白蟻研究所鹿児島出張所	加世田市小湊	出来　正
	徳田シロアリ研究所	鹿児島市下荒田町101	徳田　敏秋
	南海白蟻駆除予防工務所	鹿児島市下龍屋町58	徳永　親志
	浜崎白蟻駆除予防研究所	鹿児島市郡元町新川6—4	浜崎　重徳
	自営	鹿児島市鴨池町932	堀田　義泰
	イカリ消毒㈱鹿児島営業所	鹿児島市小川町13藤崎ビル 鹿児島市大龍町4-26　徳満ビル3—1632	黒沢　真次 同　上

都府県名	営業所名（個人営業所含む）	営業所所在地（電話番号）	所属防除士名
沖縄	沖縄害虫対策研究社	那覇市安里5　(3)3372	内田　実
	沖縄白蟻工業社	那覇市与儀551　(2)1737	小嶺　幸一
	総合白蟻工事社	那覇市古波蔵234　(2)9892	金城　英文
	第一農業㈱	南風原村兼城55　(2)1132	平良　武男
	拓南しろあり工業社	八重山石垣市大川八重山2543	前野　勤
	東京白蟻工業社	浦添村字伊祖字治真原901—140　(097)6150	小嶺　幸雄
	南西白蟻工業社	那覇市壺屋町242　(2)7921	田盛　広助
	南部白蟻工業所	与那原町与那原3106　(0952) 384	津波古　苗
	那覇薬品	那覇市上之蔵2—40　(8)4183	渡嘉敷勝男
	名護中央白蟻工事社	名護町名護446　(052)2802	比嘉　栄助
	復興白蟻工業社	嘉手納村嘉手納300　(076)2277	中村　元吉
	平和白蟻工業社	那覇市安里382　(2)0063	川田　茂夫
	都白蟻工事社	那覇市松川375　(2)8047	新城　松雄
	みやこ白蟻工事社	ユザ市胡屋1614　(077)7453	与儀　春生
	木材防腐防虫所国場組生産部	那覇市壺川94　(2)8793	新納　俊一
	大和白蟻工業社	那覇市壺屋245　(2)7956	玉津　盛八
	興南化学	那覇市松尾240　(3)5790	石川　重信

しろあり防除薬剤認定商品名一覧表

(43. 12. 30 現在)

用途別	商品名	認定番号	仕様書による薬剤種別等			製造元	
			種別	指定濃度	稀釈剤	名称	所在地
予防剤	アグドックスグリーン	番号 1001	Ⅲ種，Ⅳ種—O	原液	—	㈱アンドリュース商会	東京都港区芝公園5号地5
〃	アリアンチ	1002	Ⅱ種，Ⅲ種，Ⅳ種 Ⅴ種—O	原液	—	三共㈱	中央区銀座2—7—12
〃	アリコン	1003	Ⅱ種，Ⅲ種，Ⅳ種 Ⅴ種—O	原液	—	近畿白蟻研究所	和歌山市雑賀屋東1丁
〃	アリトン	1004	Ⅲ種，Ⅳ種—W	原液	—	深町白蟻駆除予防㈱	鹿児島市照国町18番地の3
〃	アリノン	1005	Ⅱ種，Ⅲ種，Ⅳ種 Ⅴ種—O	原液	—	山宗化学㈱	東京都中央区八丁堀2の3
〃	アントキラー	1006	Ⅱ種，Ⅲ種，Ⅳ種 Ⅴ種—O	原液	—	富士白蟻研究所	和歌山市東長町10丁目35
〃	ウッドキーパー	1007	Ⅱ種，Ⅲ種，Ⅳ種 Ⅴ種—O	原液	—	ウッドキーパー㈱	東京都渋谷区渋谷2の5の9
〃	ウッドリン—O	1008	Ⅱ種，Ⅲ種，Ⅳ種 Ⅴ種—O	原液	—	日本マレニット㈱	東京都千代田区丸ノ内2の2
〃	オスモクレオ	1009	Ⅲ種，Ⅴ種—O	ペースト状のまま	—	㈱アンドリュウス商会	東京都港区芝公園第5号地5番
〃	オスモサー	1010	(仕様書の特記による拡散法に適用する予防剤)			〃	〃
〃	第1種テルミサイドA	1011	Ⅰ種，Ⅱ種，Ⅲ種 Ⅳ種，Ⅴ種—O	原液	—	第一防腐化学㈱	東京都港区芝浜松町2の25
〃	第1種テルミサイドAS	1012	Ⅱ種，Ⅲ種，Ⅳ種 Ⅴ種—O	原液	—	〃	
〃	ネオ・マレニット	1013	Ⅰ種，Ⅱ種，Ⅲ種 Ⅳ種，Ⅴ種—W	30倍以内	水	日本マンニット㈱	
〃	モニサイド	1014	Ⅱ種，Ⅲ種，Ⅳ種 Ⅴ種—W	50倍以内	水	武田薬品工業㈱	大阪市東区道修町2の27
〃	キシラモンTR	1015	Ⅱ種，Ⅲ種，Ⅳ種 Ⅴ種—O	原液	—	武田薬品工業㈱	
〃	ポルデンソルトK33	1016	Ⅰ種，Ⅱ種，Ⅲ種 Ⅳ種，Ⅴ種—W	50倍以内	水	越井木材工業㈱	大阪市住吉区平林北之町6の1
〃	ペンタクリーン	1017	Ⅳ種，Ⅴ種—O	原液	—	山陽木材防腐㈱	東京都千代田区丸ノ内2の20
〃	ターマイトキラー1号	1018	Ⅰ種，Ⅱ種，Ⅲ種 Ⅳ種，Ⅴ種—O	原液	—	中村化学工業㈱	大阪市東区内本町橋詰町
〃	A.S.P.	1019	Ⅰ種，Ⅱ種，Ⅲ種 Ⅳ種，Ⅴ種—W	30倍以内	水	児玉化学工業㈱	東京都中央区銀座西6—1
〃	ターマイトン	1020	Ⅱ種，Ⅲ種，Ⅳ種 Ⅴ種—O	原液	—	前田白蟻研究所	和歌山市小松原通り4—1
〃	アリシス	1021	Ⅱ種，Ⅲ種，Ⅳ種 Ⅴ種—O	原液	—	東洋木材防腐㈱	大阪市此花区桜島町37
〃	ケミドリン	1022	Ⅱ種，Ⅲ種，Ⅳ種 Ⅴ種—W	20倍以内	水	児玉化学工業㈱	
〃	モニサイドA	1023	Ⅱ種，Ⅲ種，Ⅳ種 Ⅴ種—O	4倍以内	水	武田薬品工業㈱	
〃	パルトンR76	1024	Ⅱ種，Ⅲ種，Ⅳ種 Ⅴ種—O	原液	—	㈱アンドリュウス商会	
〃	サトコート	1025	Ⅱ種，Ⅲ種，Ⅳ種 Ⅴ種—O	原液	—	イサム塗料㈱	大阪市福島区鷺州上1丁目6
〃	ケミドリン—O	1026	Ⅱ種，Ⅲ種，Ⅳ種 Ⅴ種—O	原液	—	児玉化学工業㈱	
駆除剤	アリアンチ	2001	Ⅳ種，Ⅴ種—O	原液	—	三共㈱	
〃	アリシス	2002	Ⅳ種，Ⅴ種—O	原液	—	東洋木材防腐㈱	
〃	アリトン	2003	Ⅴ種—W	原液	—	深町白蟻駆除予防㈱	
〃	アリノン	2004	Ⅳ種，Ⅴ種—O	原液	—	山宗化学㈱	
〃	ウッドキーパー	2005	Ⅳ種，Ⅴ種—O	原液	—	ウッドキーパー㈱	

〃	ウッドリン	2006	Ⅳ種，Ⅴ種—W	10倍以内	水	日本マレニット㈱	
〃	三共アリコロシ	2007	Ⅳ種，Ⅴ種—W	10倍以内	水	三共㈱	
〃	第2種テルミサイド	2008	Ⅳ種，Ⅴ種—W	2倍以内	水	第一防腐化学㈱	
〃	メルドリン	2009	Ⅳ種，Ⅴ種—W	10倍以内	水	日本マレニット㈱	
〃	モニサイド	2010	Ⅳ種，Ⅴ種—W	25倍以内	水	武田薬品工業㈱	
〃	キシラモンTR	2011	Ⅳ種，Ⅴ種—O	原　液	—	〃	
〃	サンプレザー	2012	Ⅳ種，Ⅴ種—O	原　液	—	山陽木材防腐㈱	東京都千代田区丸ノ内2の20
〃	アントキラー	2013	Ⅳ種，Ⅴ種—O	原　液	—	富士白蟻研究所	和歌山市東長町10の35
〃	ターマイトキラー1号	2014	Ⅳ種，Ⅴ種—O	原　液	—	中村化学工業㈱	
〃	ターマイトン	2015	Ⅳ種，Ⅴ種—O	原　液	—	前田白蟻研究所	
〃	アリシス	2016	Ⅳ種，Ⅴ種—O	原　液	—	東洋木材防腐㈱	
〃	ケミドリン	2017	Ⅳ種，Ⅴ種—W	20倍以内	水	児玉化学工業㈱	
〃	モニサイドA	2018	Ⅳ種，Ⅴ種—W	4倍以内	水	武田薬品工業㈱	
〃	テルトップ油剤	2019	Ⅳ種，Ⅴ種—O	原　液	—	武田薬品工業㈱	
〃	アリゼット	2020	Ⅳ種，Ⅴ種—O	原　液	—	協和化学㈱	鯖江市染色工業団地49—B
〃	コロナ	2021	Ⅳ種，Ⅴ種—W	10倍以内	水	みくに消毒化学㈱	東京都台東区東上野3—36—8
〃	アグトックスクリヤーC	2022	Ⅳ種，Ⅴ種—W	5倍以内	水	㈱アンドリュウス商会	
〃	ケミドリン—O	2023	Ⅳ種，Ⅴ種—O	原　液	—	児玉化学工業㈱	
〃	F.O.M.	2024	Ⅳ種，Ⅴ種—O	原　液	—	㈱山島白蟻	清水市大和町40
土壌処理剤	アリデン末	3001		原　粉	—	三共㈱	
〃	アリデン	3002		20倍以内	水	〃	
〃	アリノンSM	3003		50倍以内	水	山宗化学㈱	
〃	アリノンパウダー	3004		原　粉	—	〃	
〃	クレオーゲン	3005		3倍以内	水	東洋木材防腐㈱	
〃	メルドリン	3006		10倍以内	水	日本マレニット㈱	
〃	メルドリンP	3007		原　粉	—	〃	
〃	モニサイド	3008		25倍以内	水	武田薬品工業㈱	
〃	デフトリン	3009		10倍以内	水	東和化学㈱	広島市鉄砲町1—23
〃	アントキラー	3010		原　粉	—	富士白蟻研究所	和歌山市東長町10の35
〃	ターマイトキラー2号	3011		20倍以内	水	中村化学工業㈱	
〃	ターマイトンSD	3012		10倍以内	水	前田白蟻研究所	
〃	アントキラー乳剤	3013		30倍以内	水	富士白蟻研究所	
〃	デルトップ粉剤	3014		原　粉	—	武田薬品工業㈱	
〃	ソリュウム粉剤	3015		原　粉	—	㈱山島白蟻	

〃	ケミドリン乳剤	3016		20倍以内	水	児玉化学工業㈱	

仕様書による薬剤「種別」……社団法人日本しろあり対策協会木造建築物の「しろあり」防除仕様書の木材処理方法の項に定められた種別である。

Ⅰ種……温冷浴処理法　Ⅱ種……浸漬処理法　Ⅲ種……塗布処理法
Ⅳ種……吹付け処理法　Ⅴ種……穿孔処理法　O……油性又は油溶性薬剤の略称である
W……水溶性又は乳剤の略称である

しろあり関係者および防除士
受験者の必読の書!!

「しろあり防除ダイジェスト」

編集発行　社団法人　日本しろあり対策協会
東京都港区芝西久保明舟町19（住宅会館）
電　話　（501）２９９４　３８７６

内　容

第　1　章　シロアリの昆虫学的知識
第　2　章　シロアリ防除薬剤に関する知識
第　3　章　シロアリ防除処理施工に関する知識
第　4　章　木造建築物のシロアリ防除処理仕様書に関する知識
第　5　章　建築に関する知識

Ａ５版　１６３頁　頒価５００円

しろあり　総目次

NO. 1 ～ *NO.* 9

No. 1　1962. 7月

全日本しろあり対策協議会規約……(1)
日本文化形成としろあり防除……芝本　武夫…(3)
白蟻対策とＰＲ……前岡　幹夫…(4)
本会の方針とその経過……一ノ瀬周太郎…(5)
サツマシロアリ……中島　茂…(8)
鉄道まくら木とケーブルのしろあり被害
……河村　肇…(11)
木材をしろあり防除薬剤で処理する方法
……雨宮　昭二…(16)
近畿支部の設立について……斧出　正隆…(20)
愛媛県支部の紹介……(22)
木材のギャング「しろあり」……Ｍ・Ｎ　生…(30)
暖冬異変とイエシロアリ……桑野　田郎…(31)
我輩はシロアリである「エレベーターに乗ったシロアリさん」……篠隈　徳雄…(33)
勘と巣……吉野　利夫…(34)

No. 2　1963. 8月

国際交流するシロアリの研究……芝本　武夫…(3)
カタンシロアリ……中島　茂…(5)
白蟻の進化と日本産の占める位置……森本　桂…(9)
国鉄における白蟻対策の今昔……和仁　達美…(16)
しろあり雑感……中野　誠…(17)
イエシロアリの新婚生活をのぞく……松沢　寛…(18)
防蟻と防腐……金平　洋一…(20)
フェノール類無機弗化物系木材防腐剤の成分配分比について……山内　敬一…(23)
しろあり防除薬剤試験成績…山陽木材防腐株式会社…(30)
プラスチック材の防蟻処理……鈴木　英昭…(32)
シロアリ探知機 Sonic Detector の改良とこれによって捕足したシロアリ活動音のオシログラフ
……森　八郎…(35)
福岡県支部だより……(38)
愛媛県支部だより……(41)
近畿支部だより……(44)
討論室……
黒いしろあり……吉野　利夫…(54)
薬三割，腕七割……桑野　田郎…(56)
亜砒酸使用に関する考察……久保田　博…(58)
白蟻の活動状況に対する私の体験……中村竜次郎…(60)
35年を経過した防除工事の現況について
……篠隈　徳雄…(61)
随筆……徳田　敏秋…(62)

No. 3　1964. 5月

第３号の発刊に当って……大村巳代治…(1)
イエシロアリの歩行動作……中島　茂…(2)
瀬戸内沿岸島嶼部におけるシロアリ事情雑記
……松沢　寛・杉山　熊市・真部　才一…(4)
腐朽・白蟻の被害についての一般の認識
……細川　哲郎…(11)
近畿支部だより……(12)
愛媛県支部のうごき……(13)
第６回全国大会のあらまし……(23)

No. 4　1965. 4月

あいさつ……大村巳代治…(1)
沖縄のしろあり……伊藤修四郎…(2)
沖縄雑感……森本　博…(9)
欧米のシロアリをたずねて……中島　茂…(15)
シロアリ防除モデル地区設定に関する私見
……久保田　博…(31)
シロアリと原生動物……森本　桂…(33)
長崎県のシロアリ被害とその防除対策
……永福宇太郎・池田　武重…(38)
第７回全国大会の議事概要……(43)
鹿児島支部だより……(50)
近畿支部だより……(52)
福岡支部だより……(53)

No. 5　1966年２月

巻頭言……三宅　俊治…(1)
素人会長の弁……大村巳代治…(2)
世界としろあり―大島先生を偲んで……前岡　幹夫…(3)
経済協力開発機構（ＯＥＣＤ）の「木材および木材製品の生物劣化防止に関する国際協力研究準備委員会」に出席して……芝本　武夫…(6)
アメリカのシロアリ事情……柳沢　清…(9)
アメリカＦＨＡの Pesticide in Soil Test Kit について……小田　晟雄…(13)
東南アジアのシロアリを訪ねて……森本　桂…(14)
しろあり防除工事と責任保証の問題……久保田　博…(18)

しろあり—とくにその生化学—に関して
……井上　嘉幸…(20)
地下ケーブルの防ぎに関する研究……河村　肇…(26)
断熱材の耐ぎ性について……森　八郎…(31)
異なる構造と密度をもった木材のシロアリ被害の形態と強さ……雨宮　昭二…(34)
文けん目録……(37)

No. 6　1966. 12月

偶感……大村巳代治…(1)
木材の抗蟻成分……近藤　民雄…(2)
最近のしろあり防除剤について(1)……井上　嘉幸…(7)
しろあり被害の定期的検査業務の確立…肱黒　弘三…(11)
防ぎ板の効果並びに東オーストラリア産材の耐朽性について……河村　肇・山野　勝次…(13)
ヤマトシロアリについて（予報）……森本　桂…(18)
しろあり被害調査の集計について……大村巳代治…(24)
文けん目録……(27)

No. 7　1967. 9月

しろあり対策の思い出……森　徹…(1)
沖縄におけるシロアリ対策事情……池原　貞雄…(2)
シロアリの分布……森本　桂…(7)
しろあり防除薬剤の性能について……西本　孝一…(12)
しろあり防除剤の毒性……井上　嘉幸…(16)
国宝・重要文化財建物の老朽化について……森本　博…(24)
天幕燻蒸によるシロアリの駆除……森　八郎…(32)
アメリカのシロアリ保険……柳沢　清…(37)
しろあり防除士の反省……(39)

No. 8　1968. 2月

思いつくままに……前川　喜寛…(1)
小笠原諸島のシロアリ……森本　桂…(2)
沖縄のしろあり被害防除対策について……森本　博…(4)
イエシロアリと蟻土……中島　茂・清水　薫・中島　義人…(12)
外材利用における耐朽性に関する問題点……雨宮　昭二…(20)
明治100年に思う……桑野　田郎…(23)
私はしろあり防除士……吉野　利夫…(25)
アメリカの害虫駆除“作業員と営業”(1)……柳沢　清・小島　国利…(26)
建築界におけるしろあり研究の展望……神山　幸弘・石川　広三…(30)
シロアリの文けん目録(1)……森本　桂…(39)

No. 9　1968. 7月

巻頭言……安松　京三…(1)
水溶性防腐防蟻剤の定着に関する考察…井上　嘉幸…(2)
コンクリートの防蟻処理について……河村　肇・山野　勝次…(9)
電柱のしろあり被害調査結果について—関西地区—……西本　孝一…(14)
アメリカの害虫駆除作業員と営業(2)……柳沢　清・小島　国利…(20)
しろあり防除士の海外旅行……酒井　清六…(25)
薬剤雑感……内田　祥一…(30)
ヒラタキクイムシとその防除法……森　八郎…(32)